

御寶物圖繪

飛鳥

南都

法

隆寺

法隆寺



押當寺の御寶物と西傳書並の靈石教書

あまがさあかきま 聖徳皇太子の遺令十二箇有餘

年の今も在代この 朝廷の 齋戒科ありけり

海内一実よ天下は御寶物にばねはそりよ

言勅を下し給ひぬ今もそのまじや一海の内

すみの海にま 一代乃のこまの 湯敷知新のこま

古器古文書の類は書いはいしむ人 授まらるけり

あまがさあかきま 皇太子御通のたぬたき

行啓す 尚ほよろうて 結縁のたゞの 室をたあしむる 年を
 許さるる いた遠し 柳 奉ふるに 甘相好し かの ちや
 ひんりの 婦女 産家の 見あふる 人の 為ふ 家の 中の 大概
 縮圖 様字せ 見 洋見 あさく むら の こと 志 の 心

南都法隆學問寺幹夏



不許猥翻本賣買也

七種御寶物

七種御寶物ニ
 八如此目安ノ印ヲ見

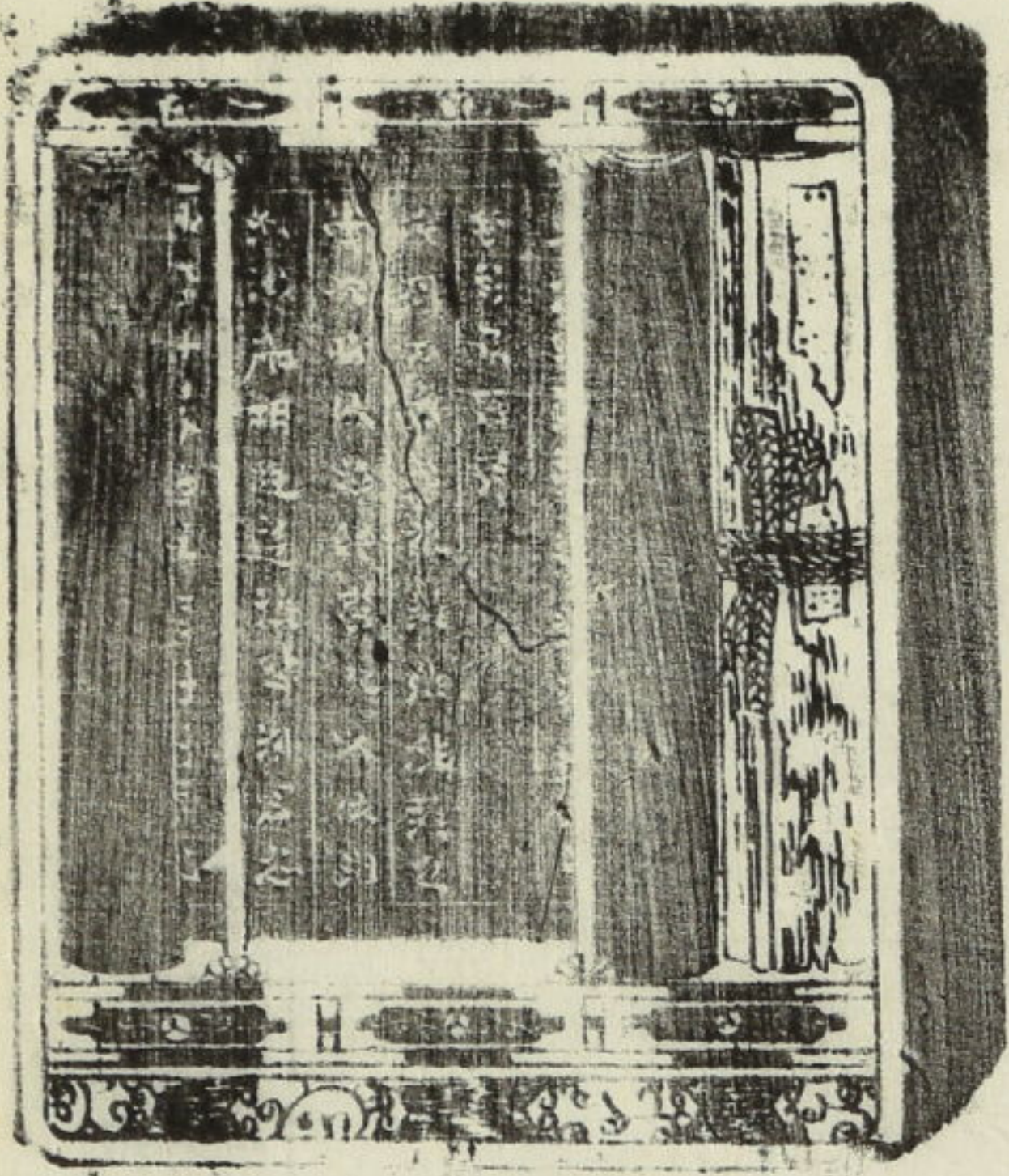
七曜之御劍

皇太子御守刀ニ振



振清

辨法梵網經 外題ニ御守
 皮ヲ押日



し形ヲ現る

杓製装

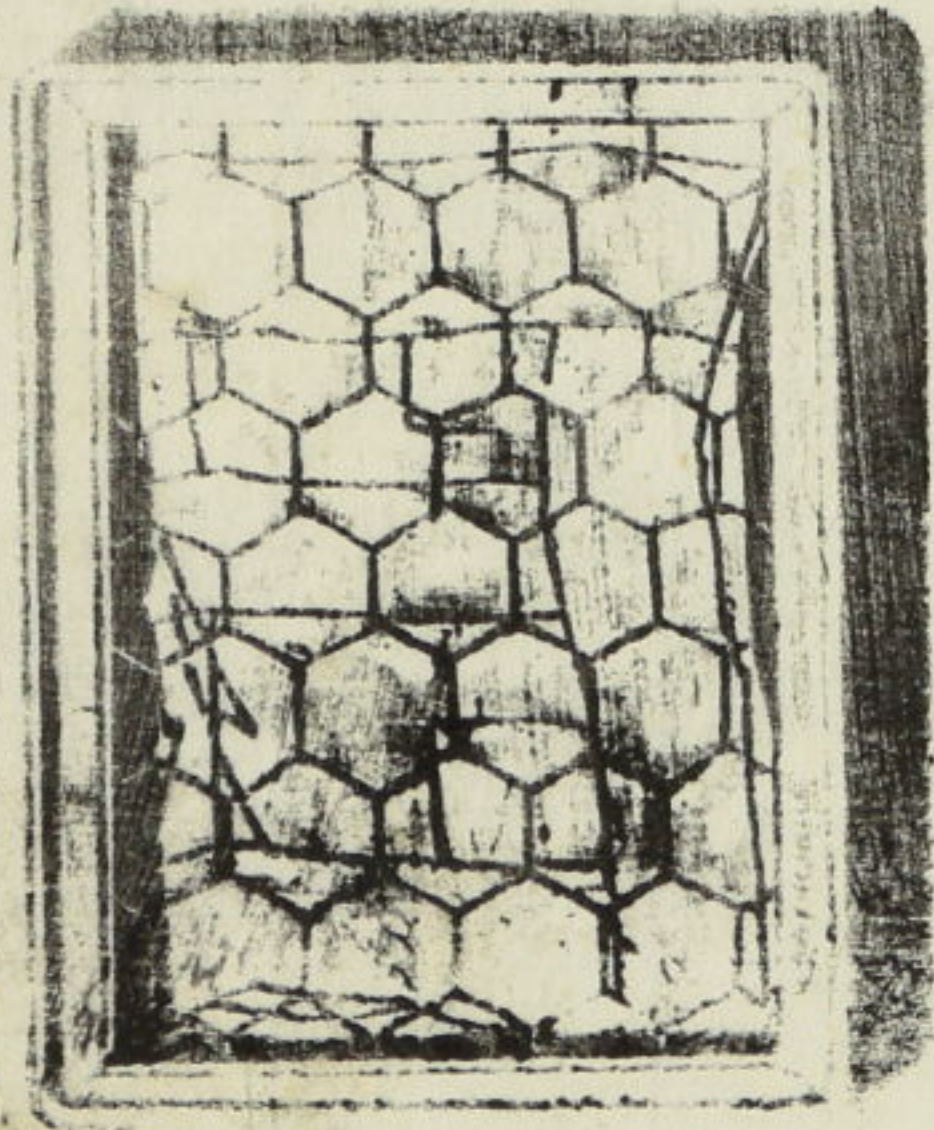
杓



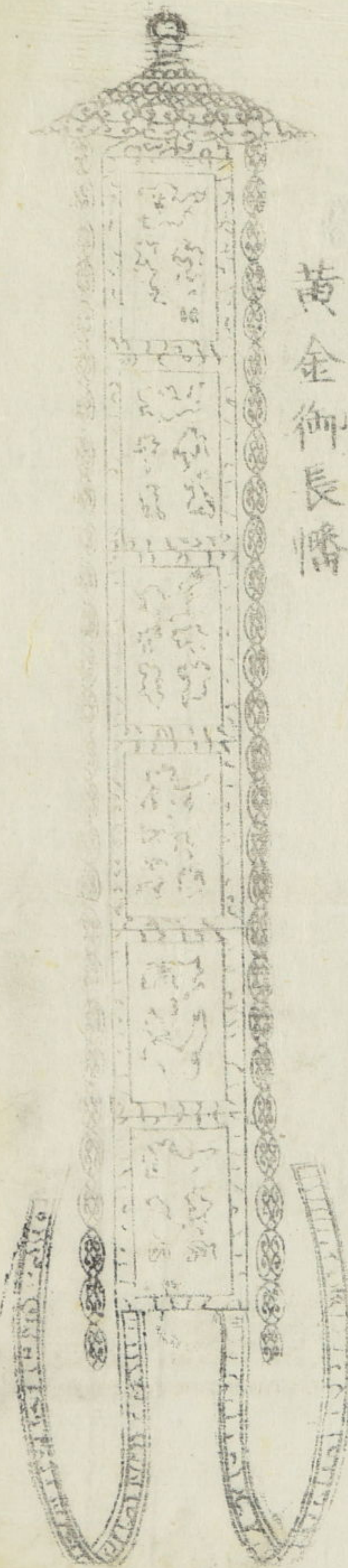
眞鍮



皇太子降誕ノ
 時御殿ノ棟
 出現スル眞鍮也



佛堂佛前主人ノ授ケ玉



黄金御長幡



金銅

推古帝ノ御所ニテ常ニ用ヒテ
御水鉢

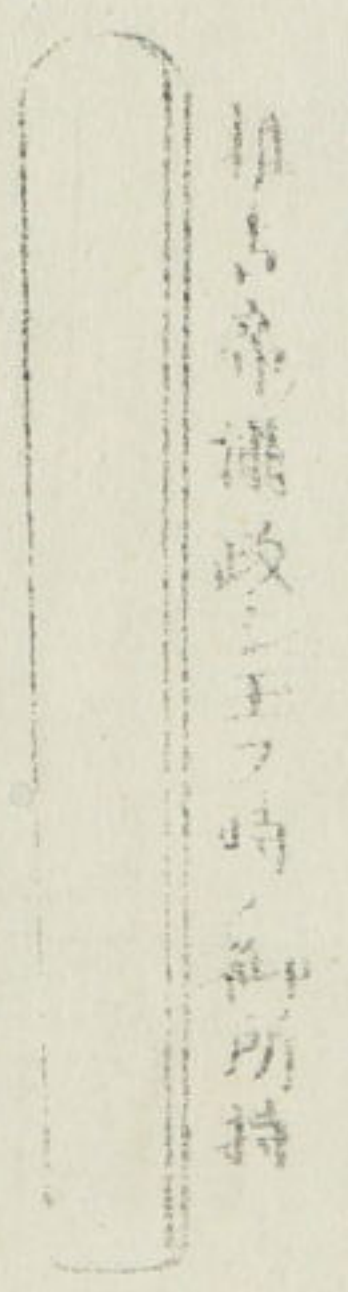
高ワ一尺六寸四分五厘

御笏



御香

御座ノ前ニ之有上代ノ御香

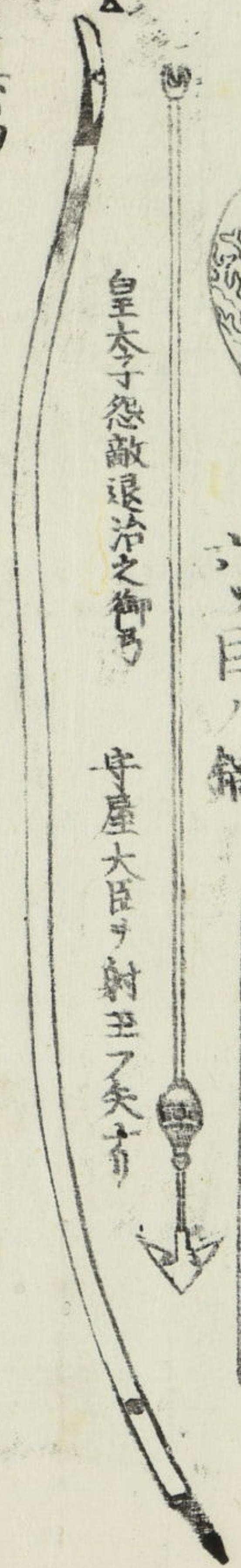


推古帝儀政ニテ用ヒテ御所持



坐尾
備有ニ物鬘經御講讀ニ用ヒテ

梓真弓

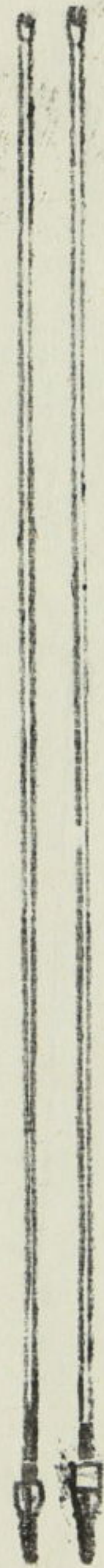


皇太子怨敵退治之御弓

守屋大臣ヲ射至テ矢ナリ

難産弓箭ノ難ヲノカリ

八



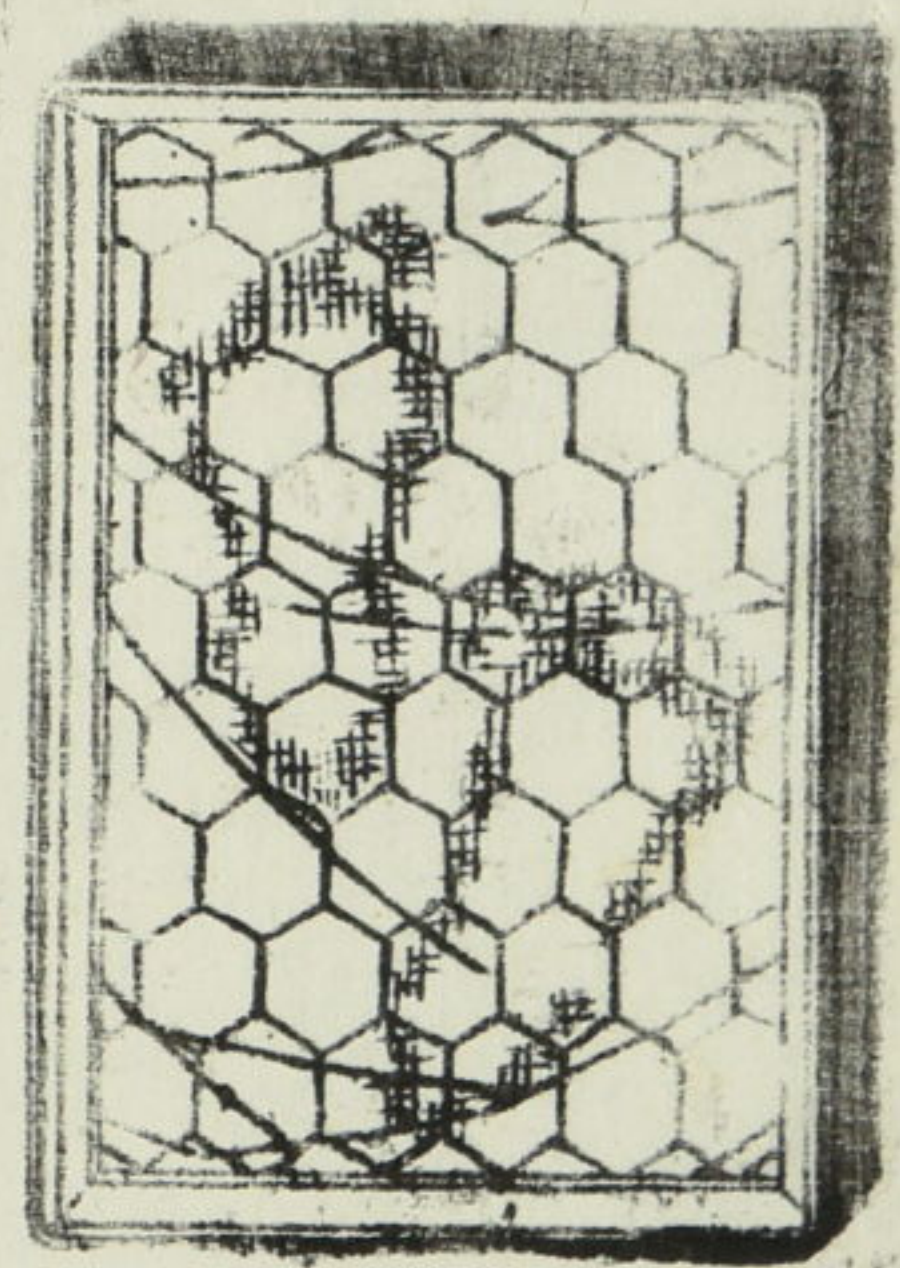
賢聖鼎



御豆印

皇太子御豆印
内當山江殘五フ
遺法與城ノ印

六ツ目ノ飾



大代鏡



銅鏡一面

金山寺香爐

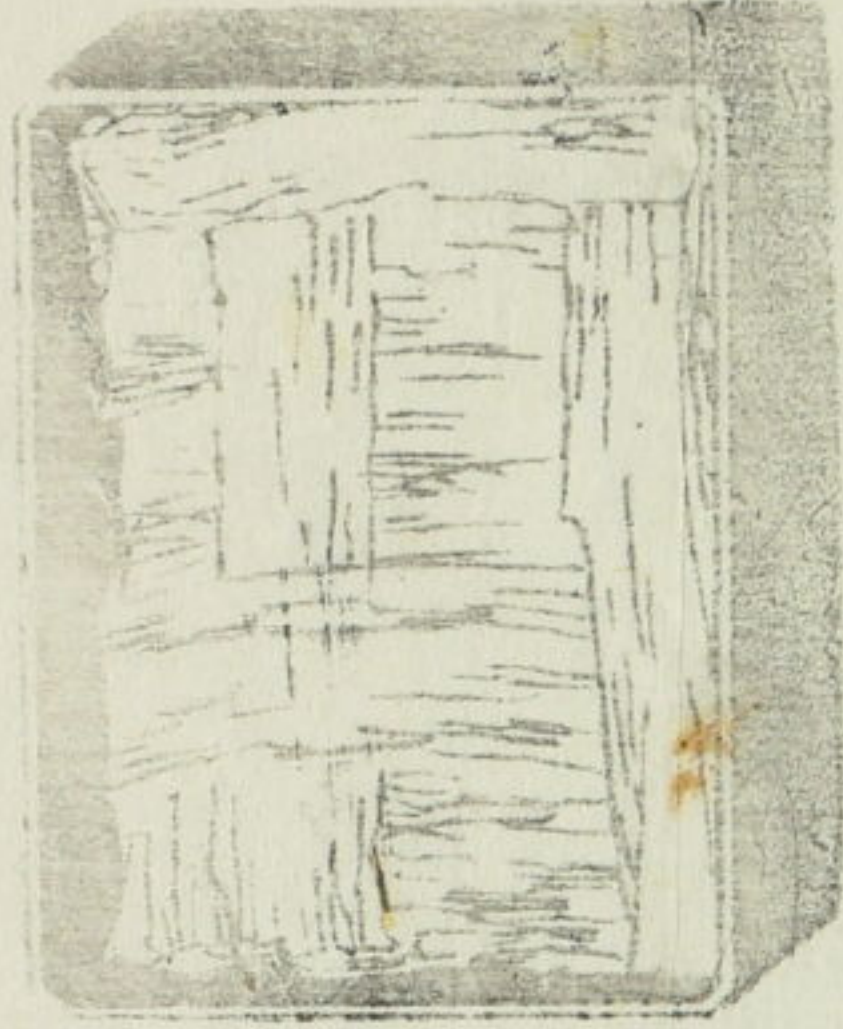


高九寸五分

底徑一尺

大定十一年戊戌五月是金山寺大殿於勸前香銅香
院一座上置具都重三下八領八兩棟梁祇毗寺住持三夏
大師惠照金山寺人師仁美京主人即將金令候專崔
氏伊次知女納縁殿司高象内内承直同正康信轉成高

藕糸袈裟



當初中將卿系系之曼荼羅之珠絲ヲ以テ織王ヲ

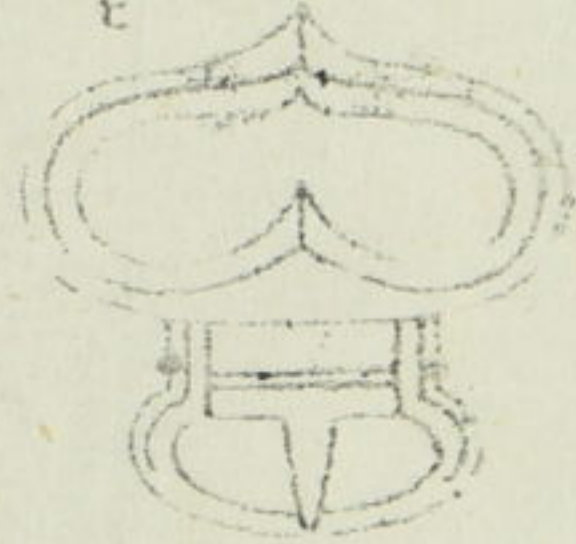
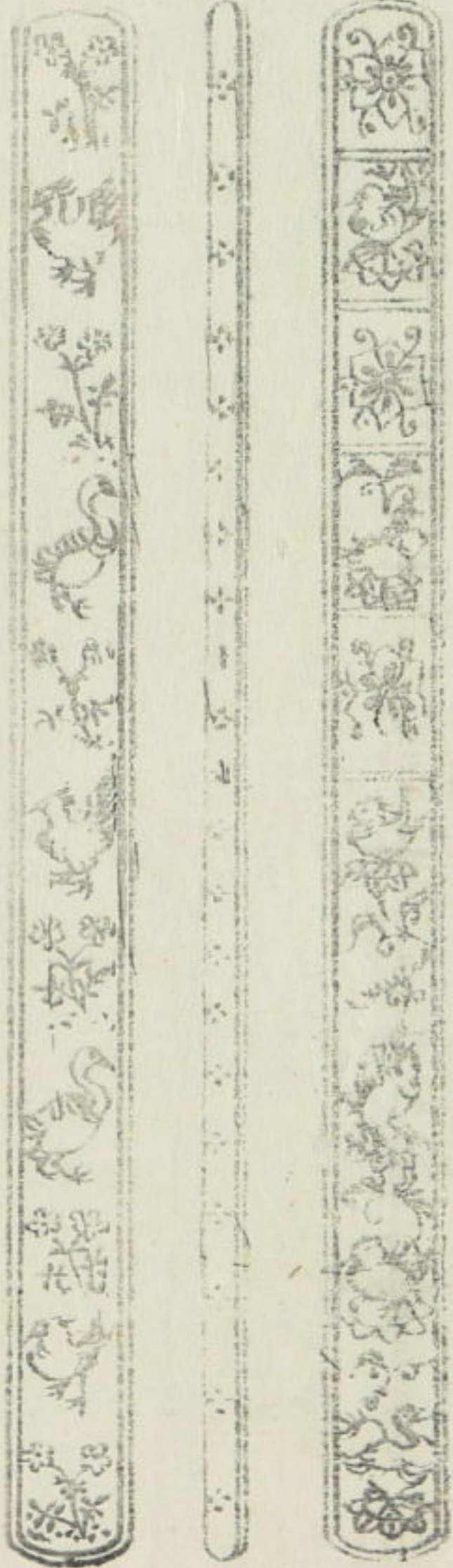
御針筒



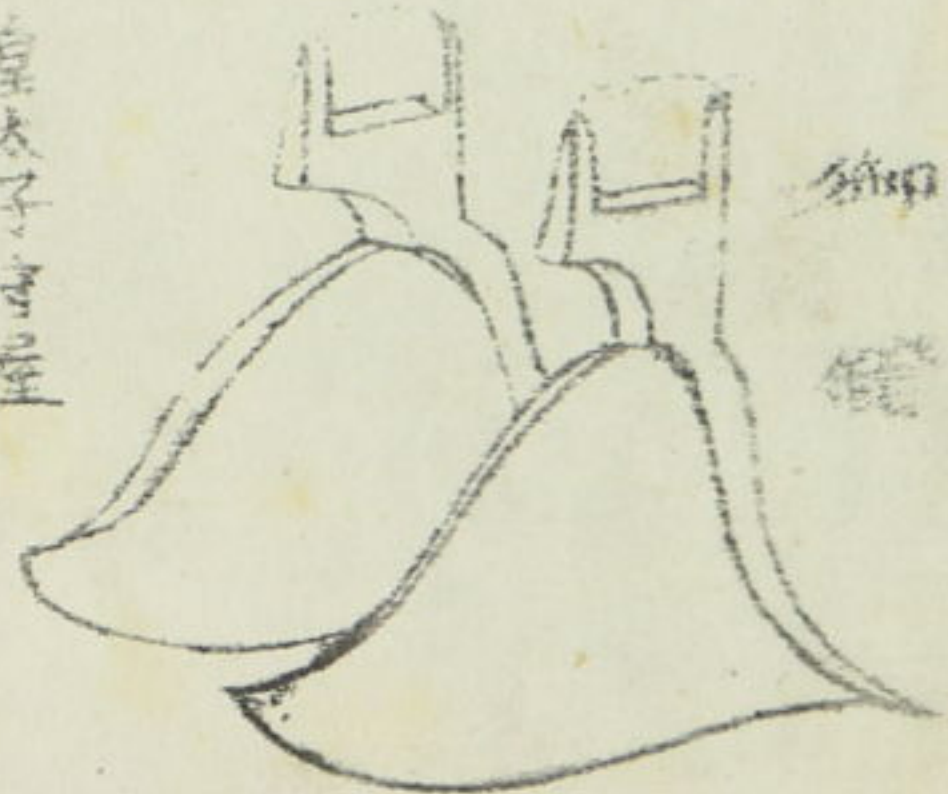
蜻蛉王金剛御誦珠

周尺

自天子佛像製被
等御製作之時用
玉之針筒用尺



皇太子宮屋
取治御時用之モノ



御

孝謙天皇御幅

黄色錦

絲



裏 淡白茶



鸚鵡形透代

薄赤透代紙

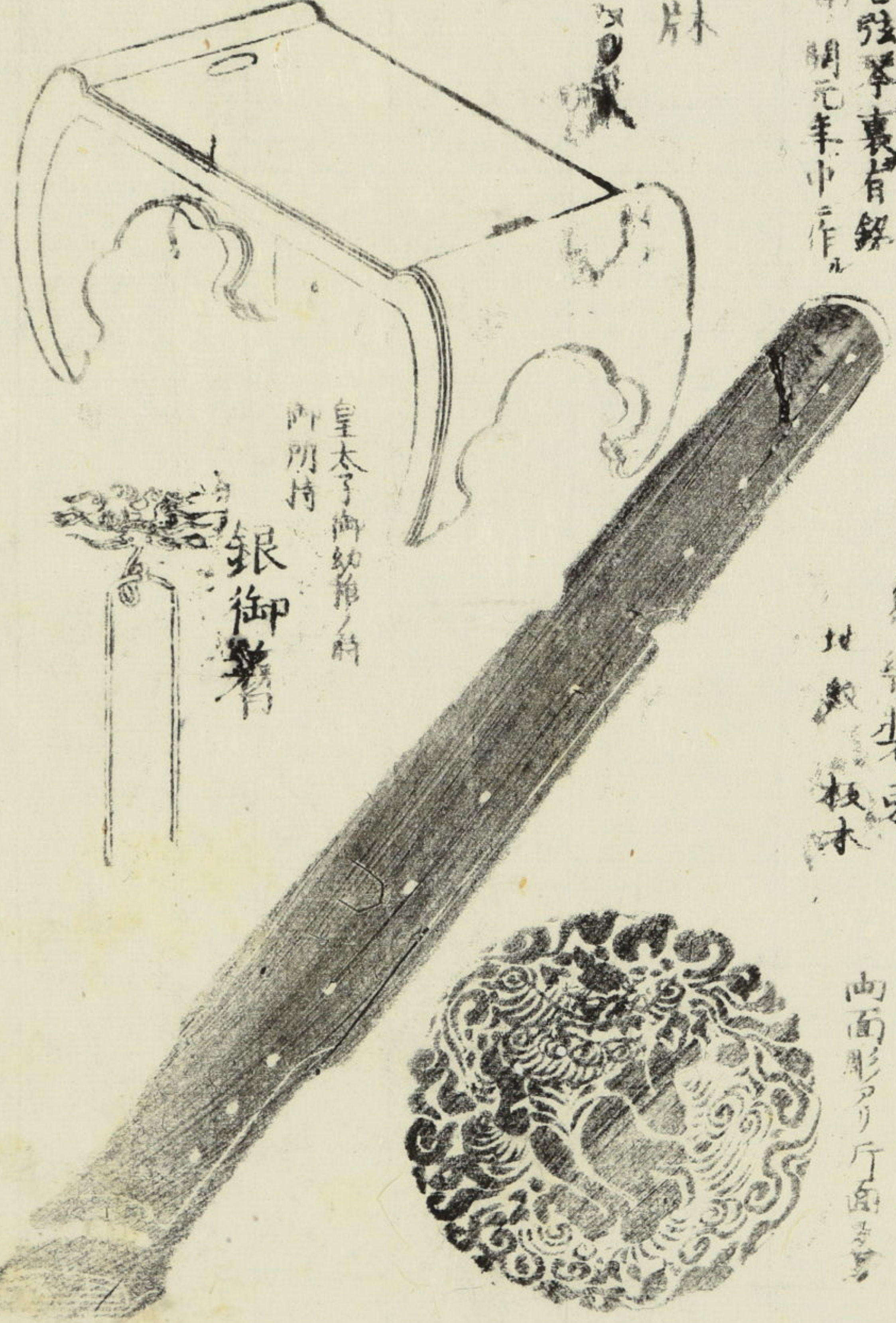


孝謙帝御寄附

七弦琴裏有銘
新開元年申作

鴨鼓牀

朱



舞樂装束

北殿板木

山面彫アリ斤面

皇太子御幼箱ノ料
所明持

銀御箸



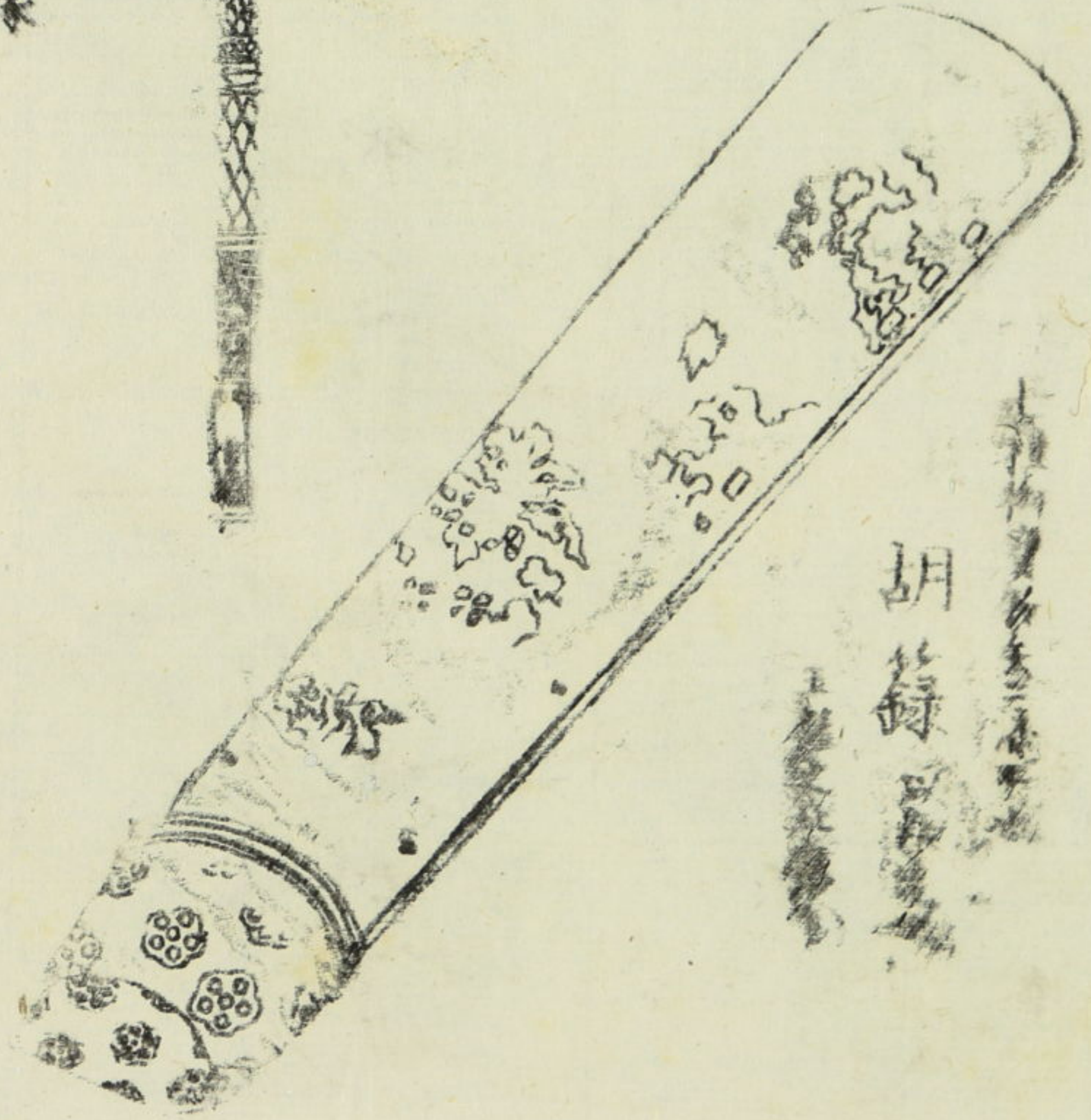
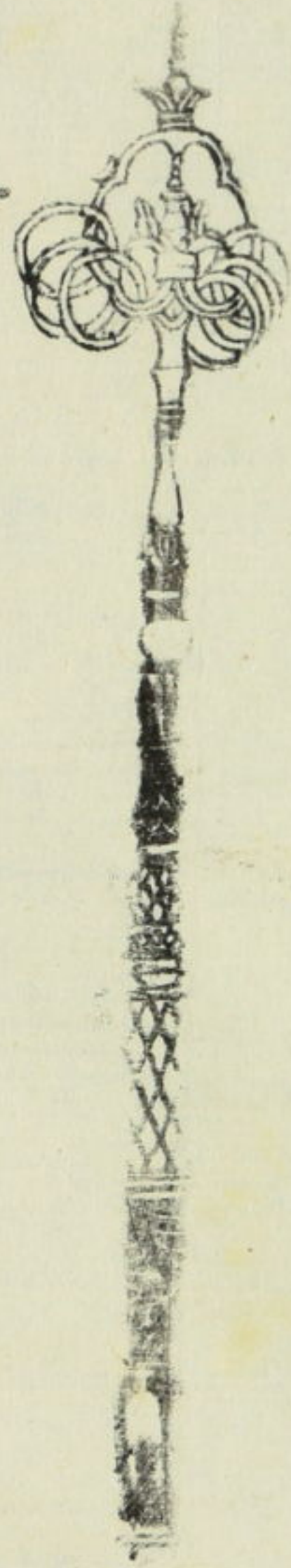
觀世音之像



四十八轉之黃金佛
高麗國大興王ヨリ
奉貢之 其金ヲ以テ
鳥佛師ニ作ラセ玉フ

錫杖

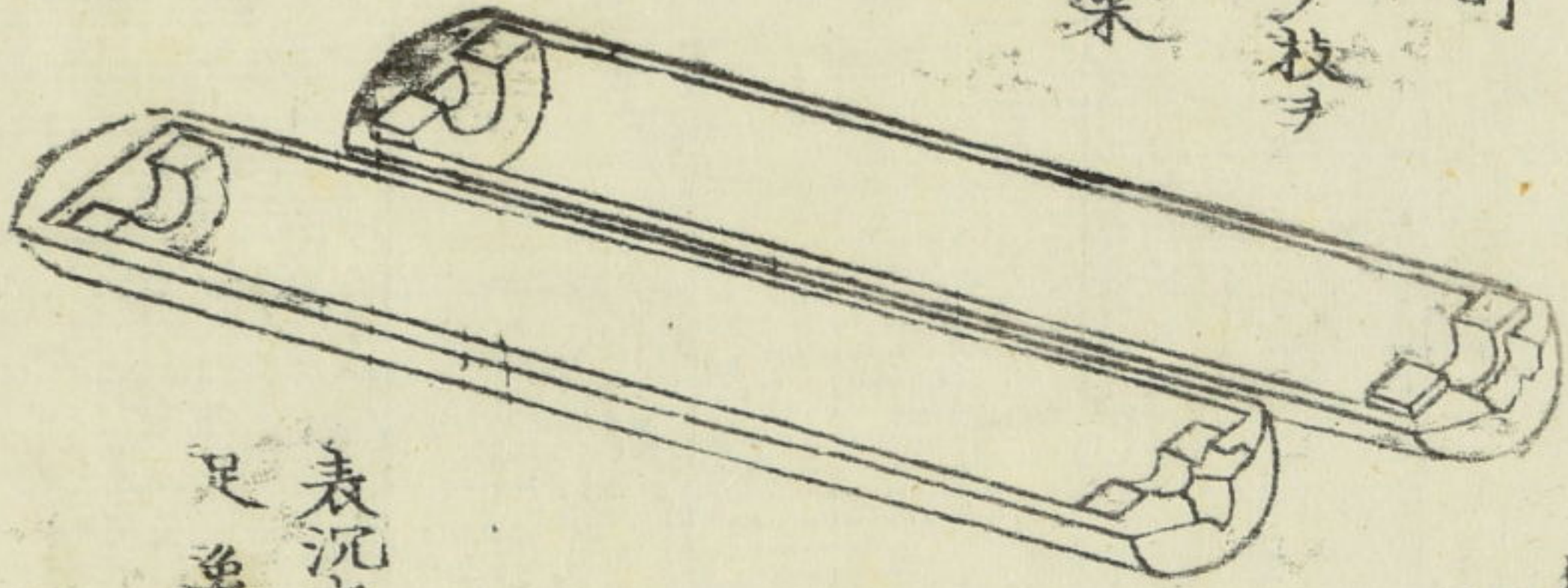
皇太子御前生ニテ御出家
御時持玉フ



胡絨

御經筒

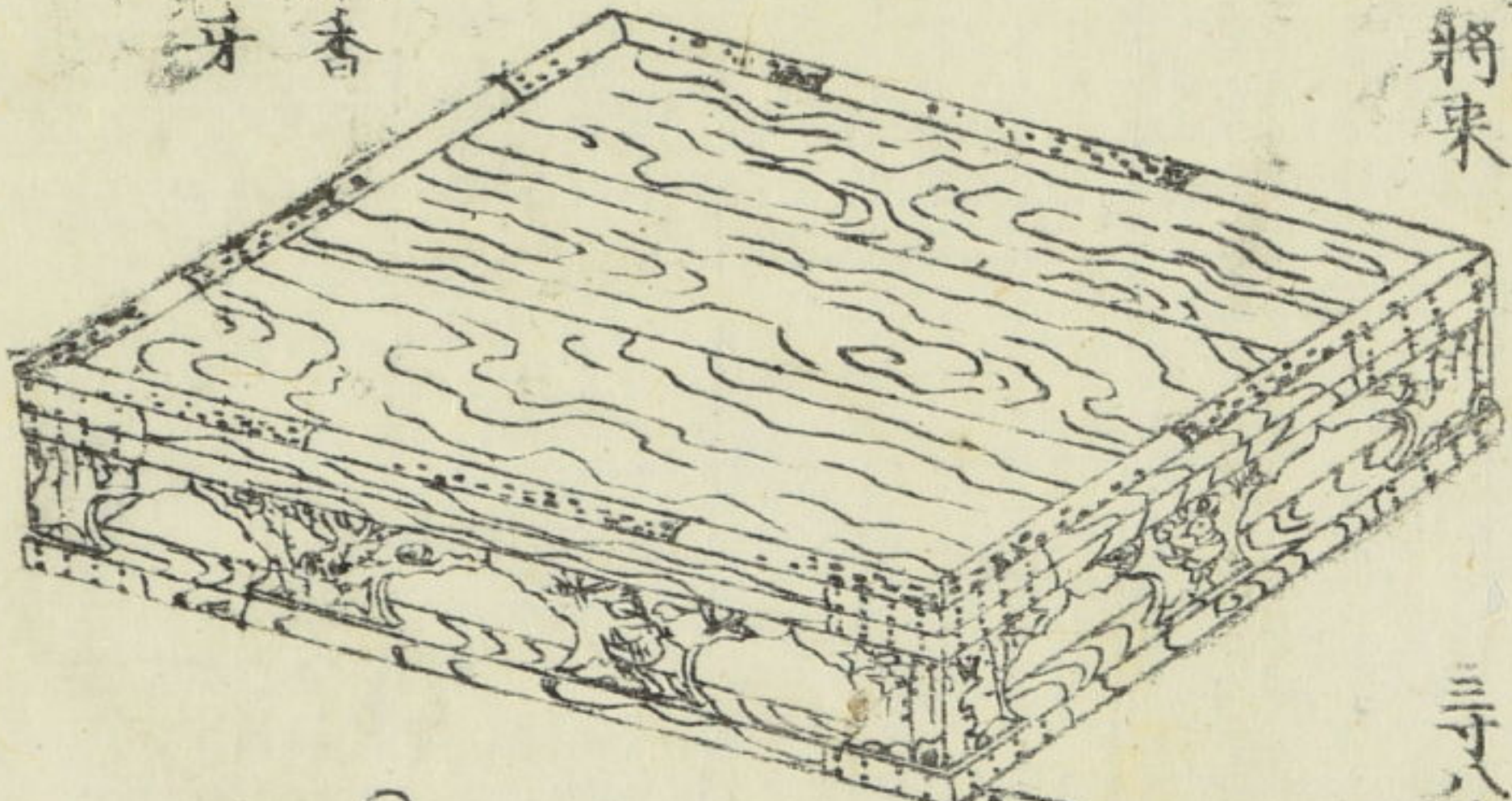
赤楠檀ノ杖ヲ
以テ作ル
殊子將束



表沉水香
足象牙

御經机

殊子
將束



大量

高リ
三寸八分

銅斗

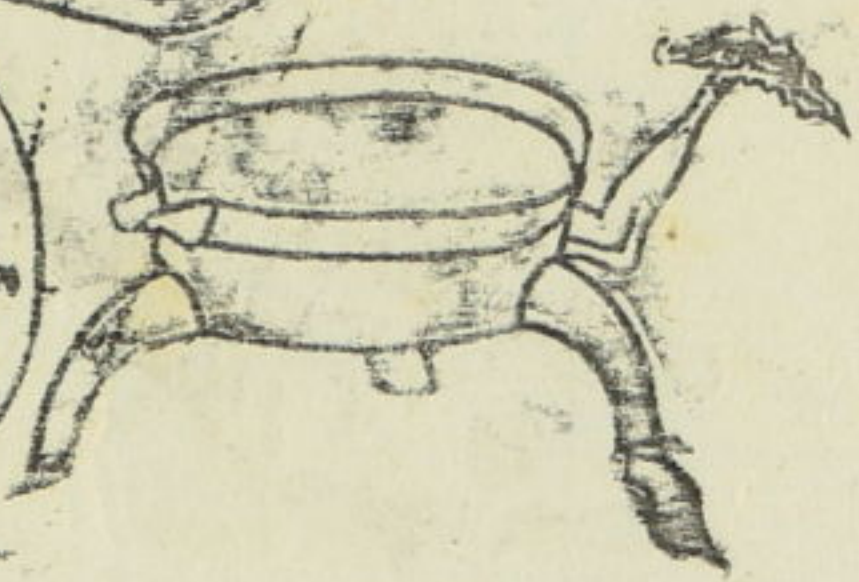
又鈎弁

高一尺五分
口徑二尺五分



油注

皇太子斑鳩ノ宮ニテ
常ニ用ヒ玉フ

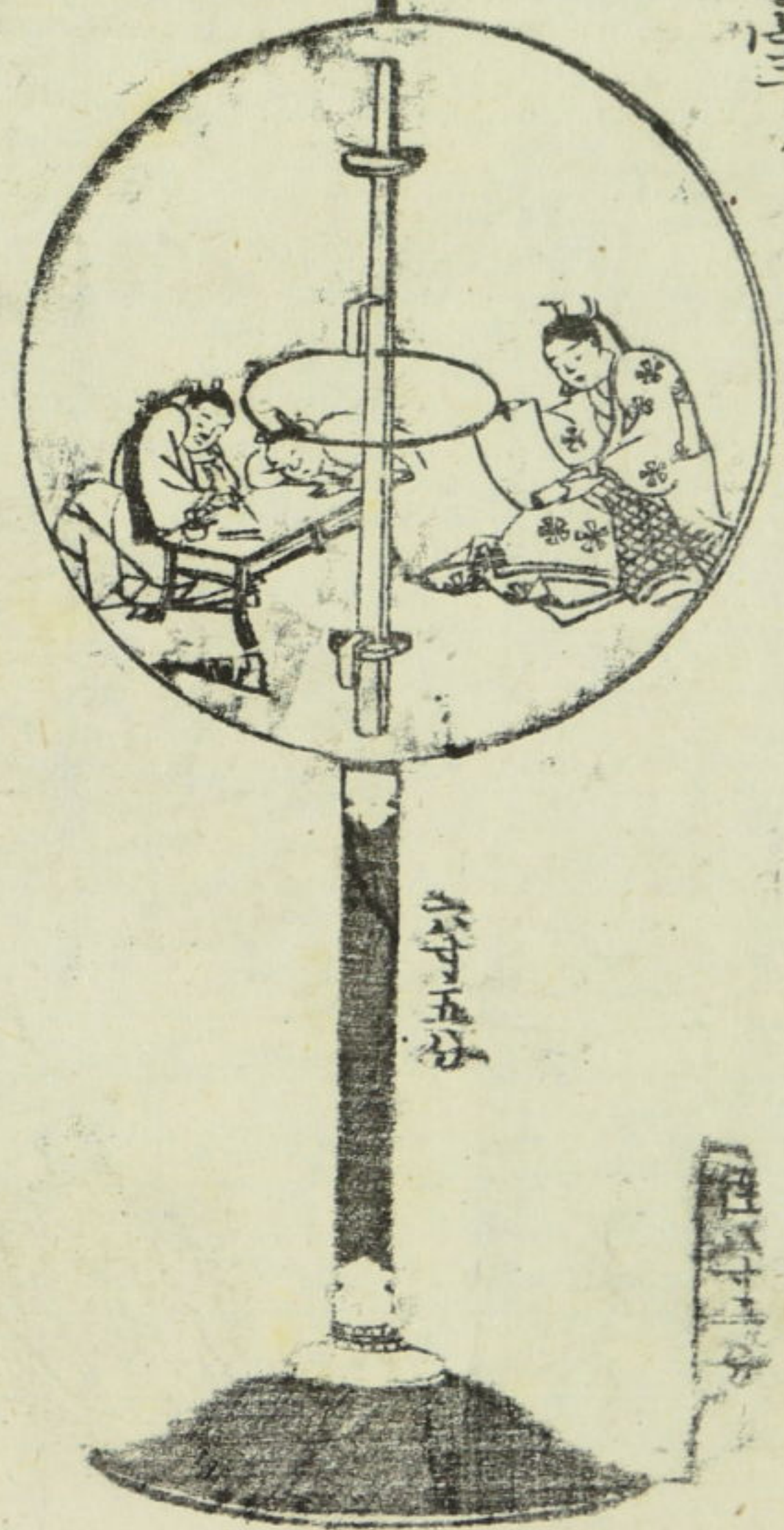


風爐 長九寸三分奈
圓徑一尺弱

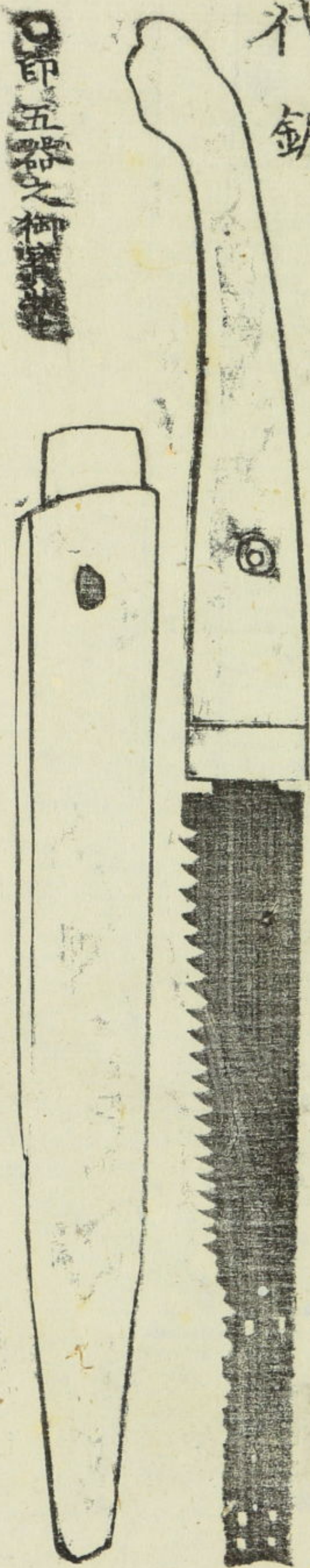


古鉄製

燈臺 高廿二尺五分

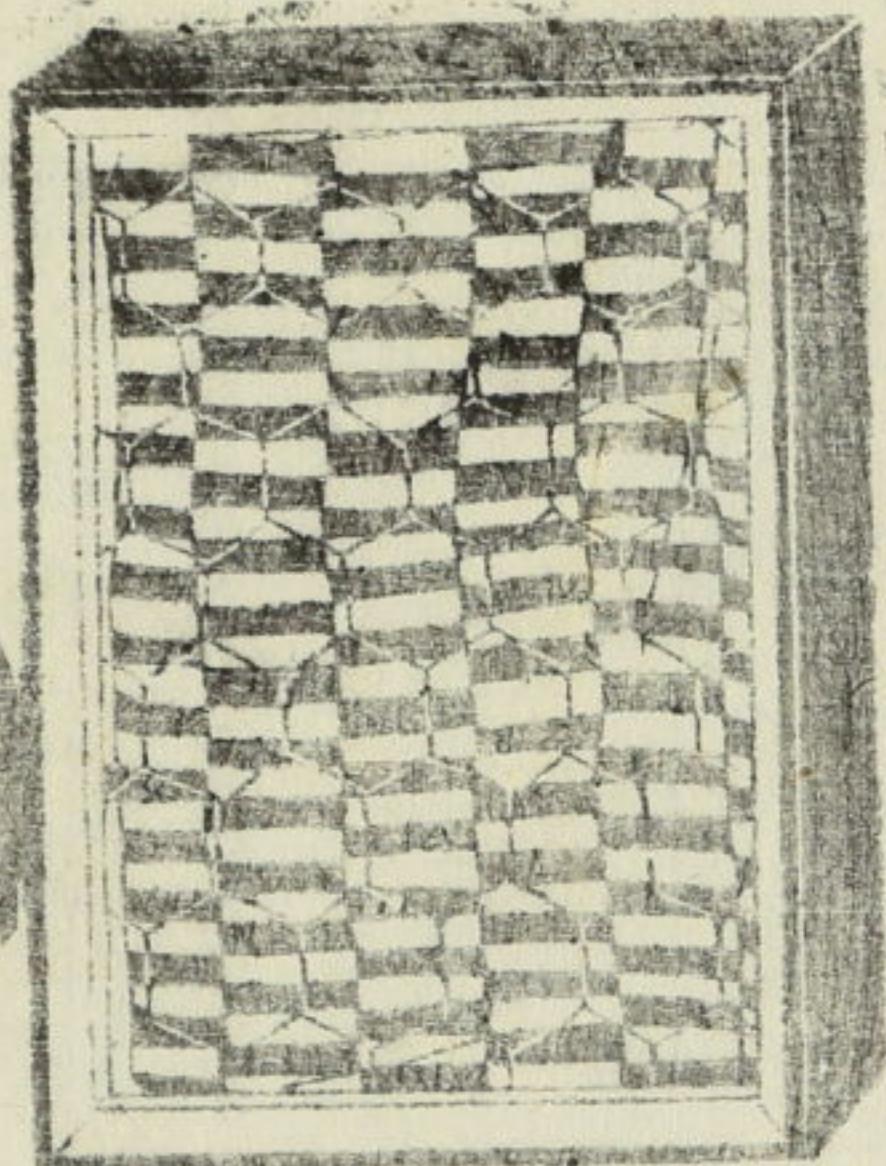


上代鋸

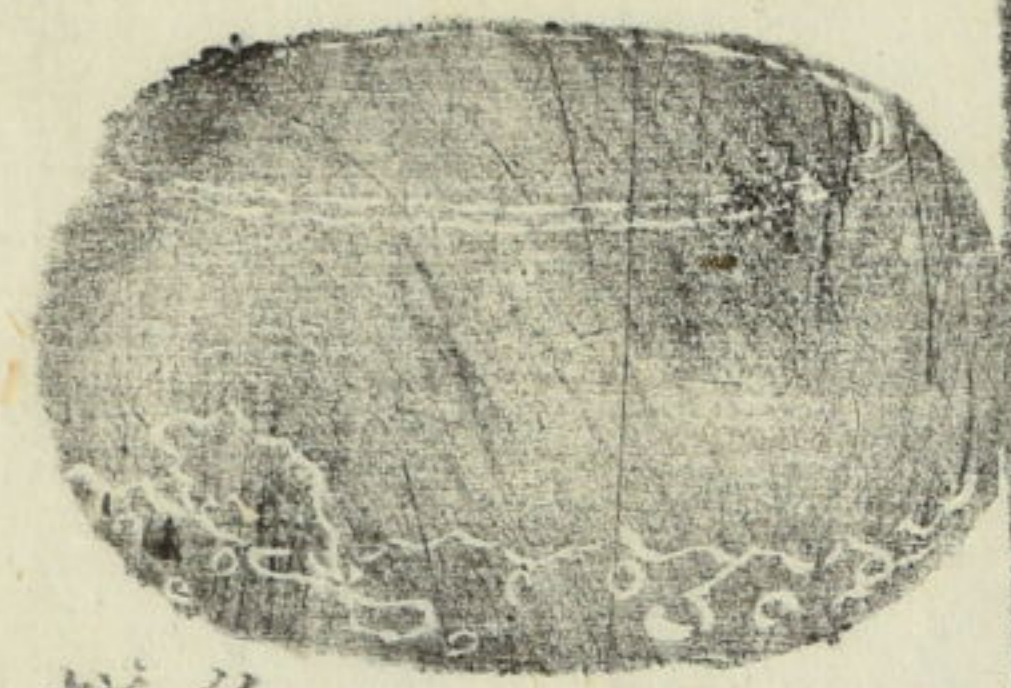


印五器之御寶

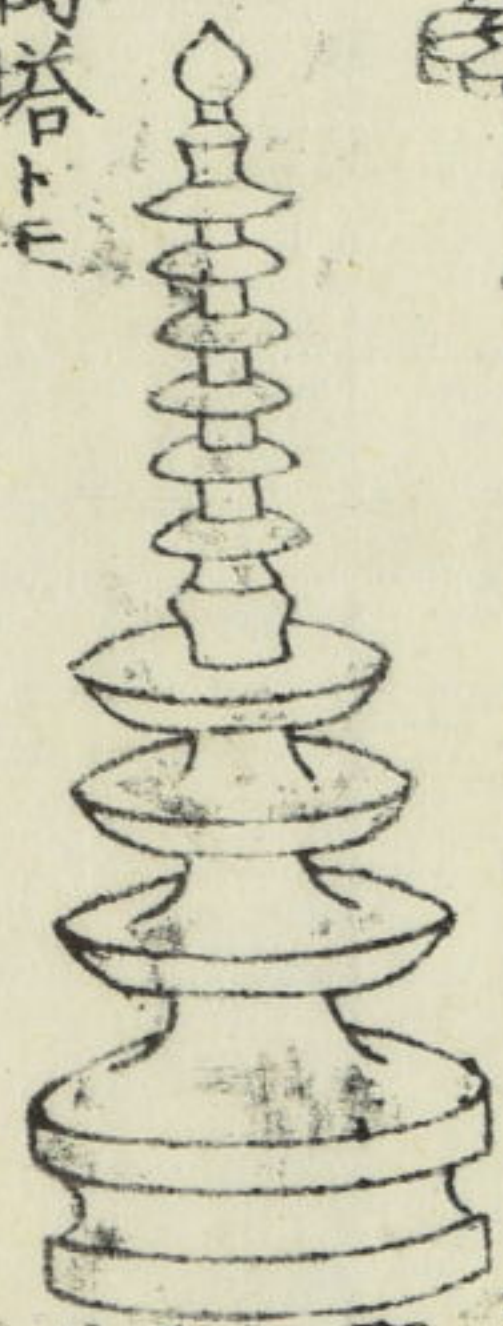
廣東御褥 皇太子斑鳩宮御
常二用ト上フ



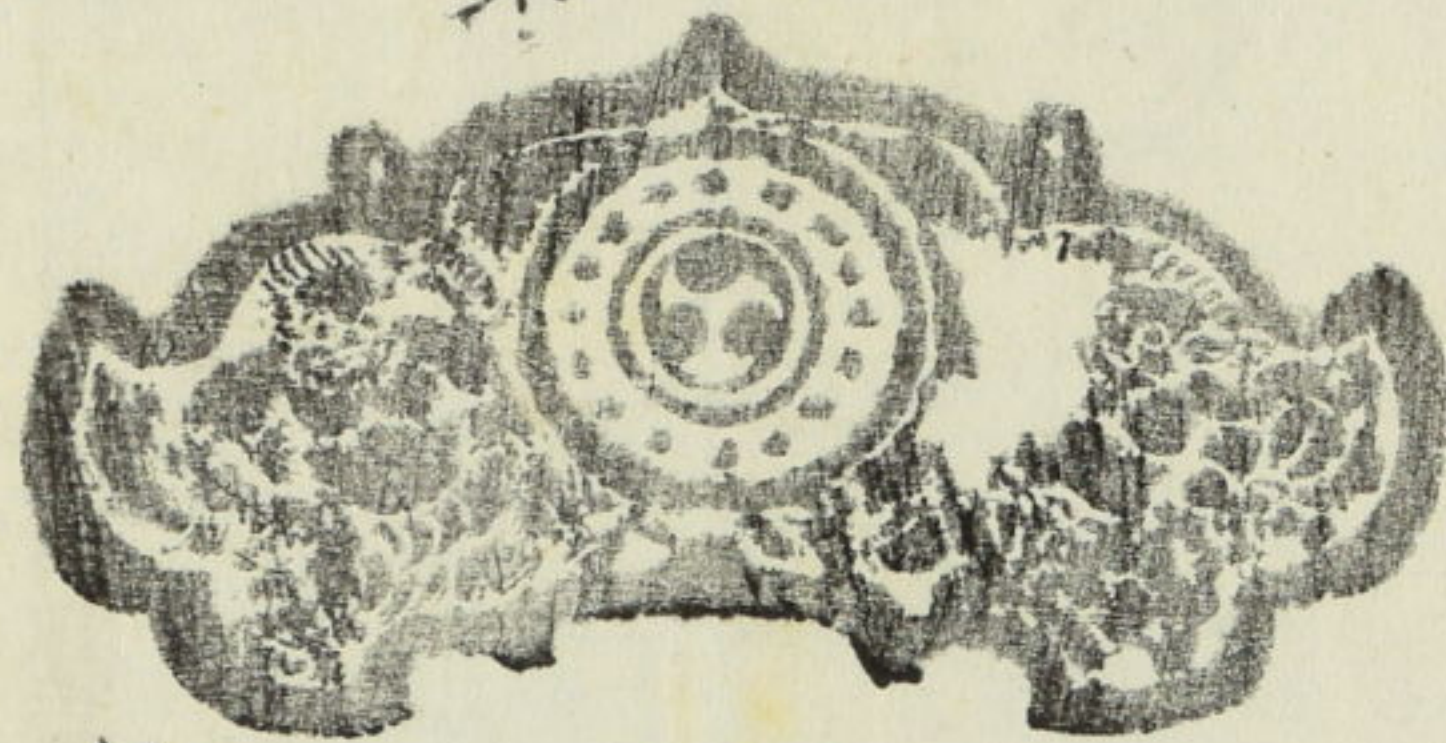
鐵鉢 高
四寸六分



魚垢淨光
百萬塔トモ



香爐 御
銘云法隆寺聖靈會
三鼓也 樂師
願主 願主 願主
推律師慶祐

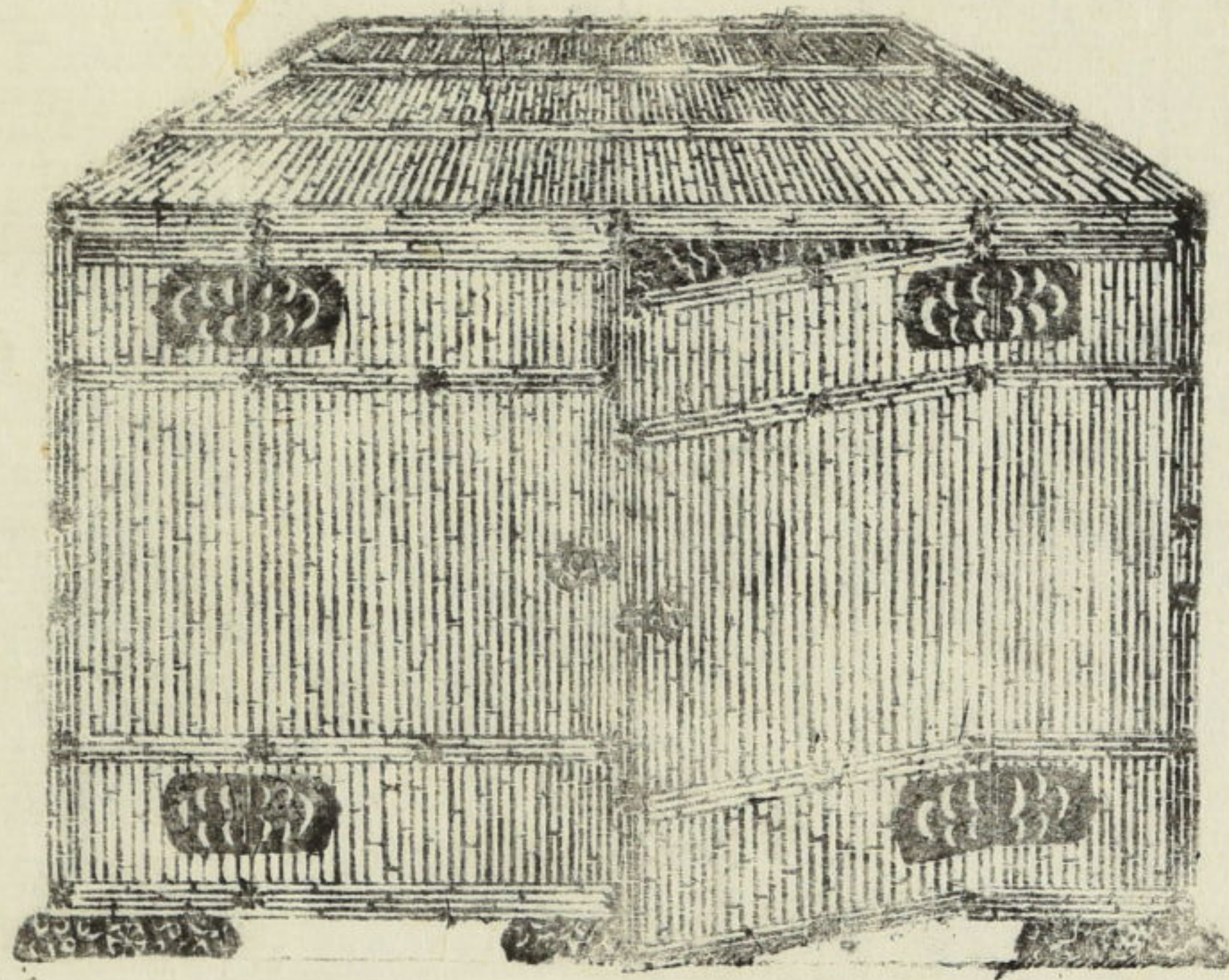


皇太子御四十六歳ノ御時
萬万経御講讀ノ時用上玉也

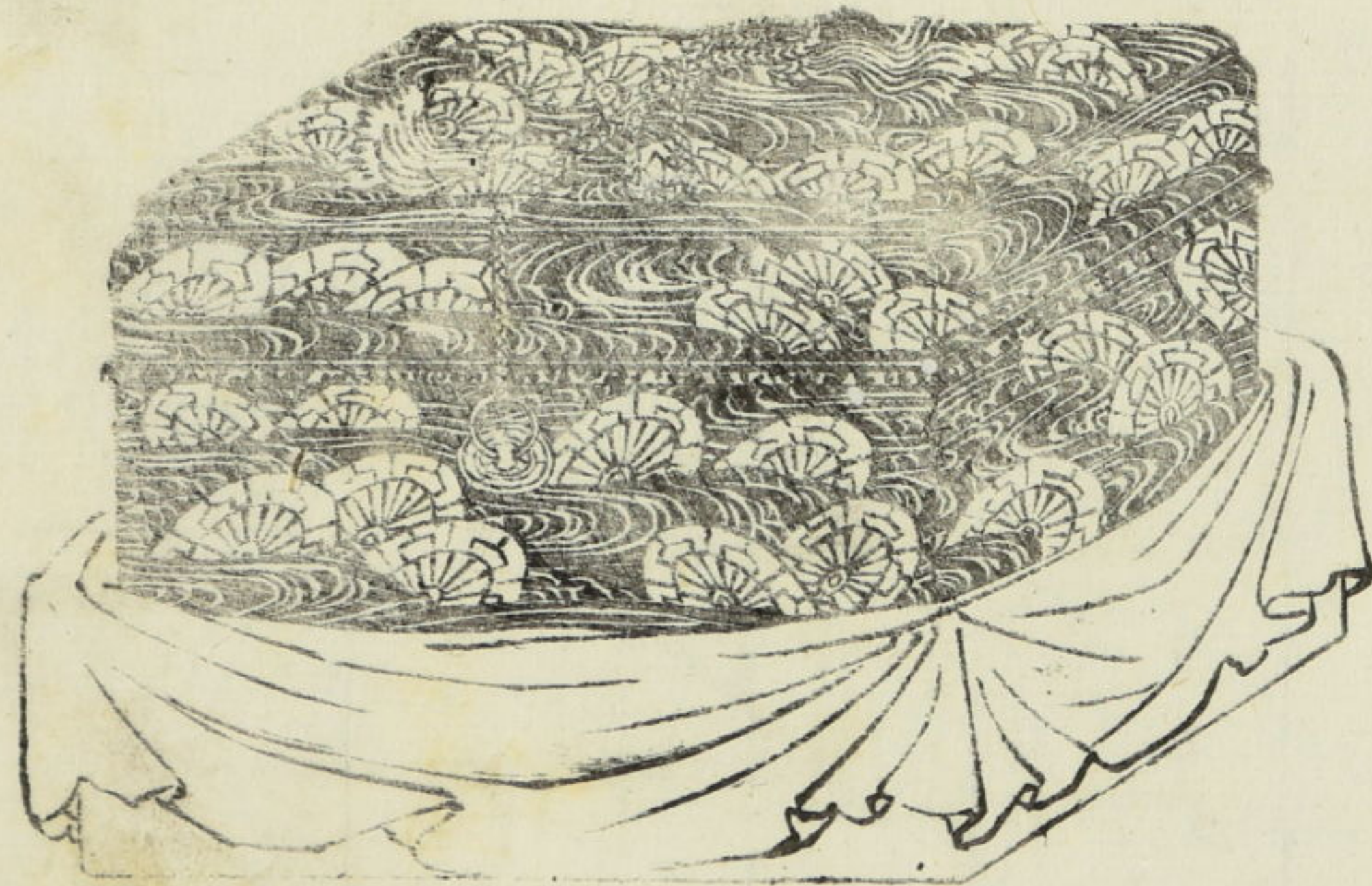


願主 願主 願主
推律師慶祐
三鼓也 樂師
願主 願主 願主
推律師慶祐

御竹簾



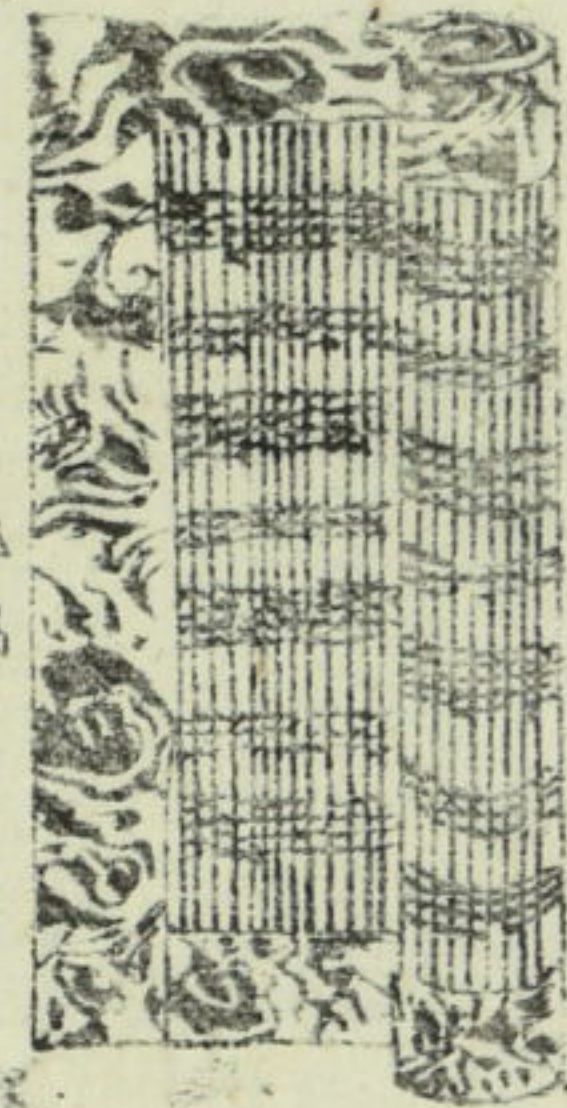
月輪車箱



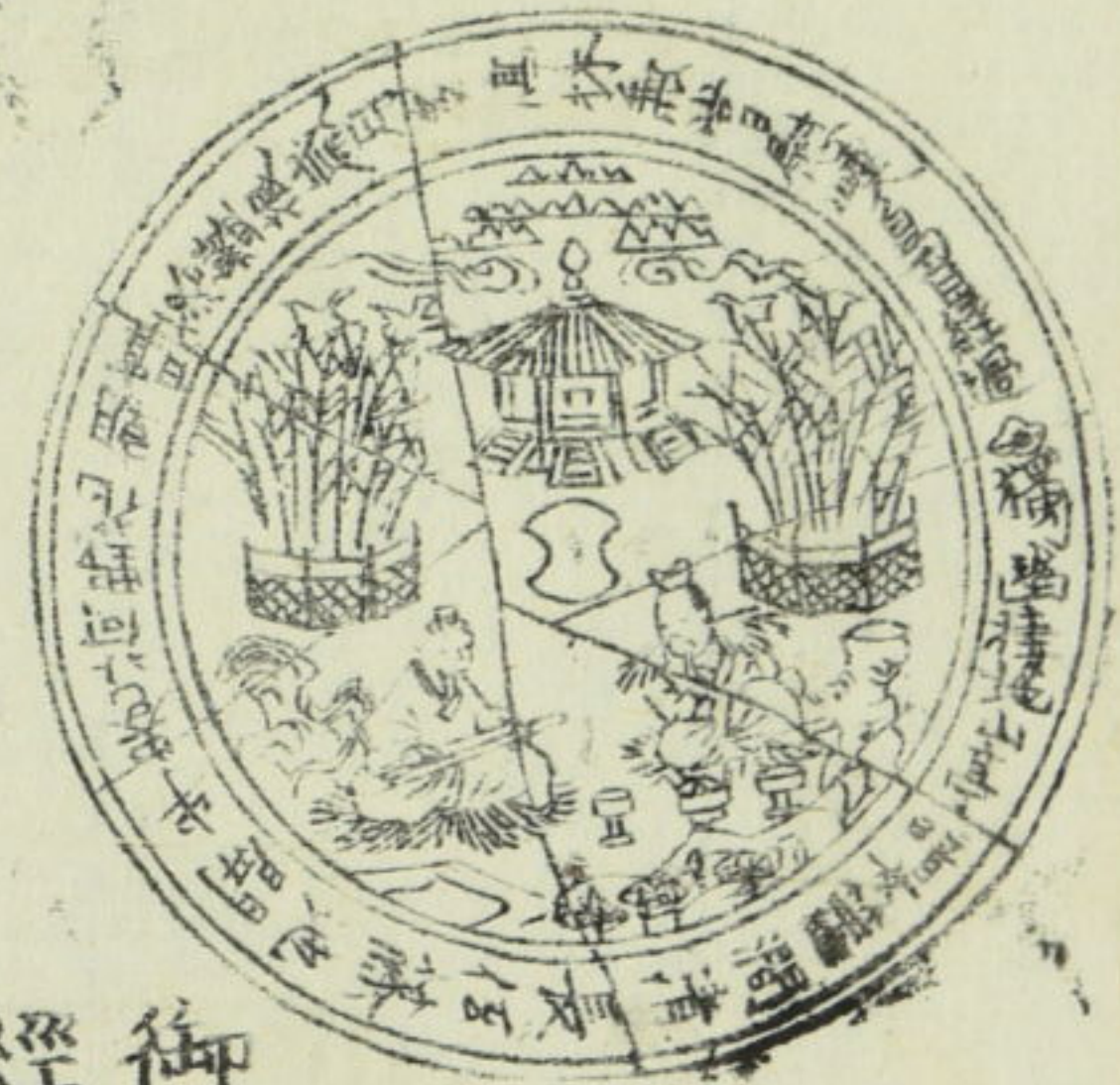
鏡三面
月益姬
日益姬
玉照姬
用之主
鏡有



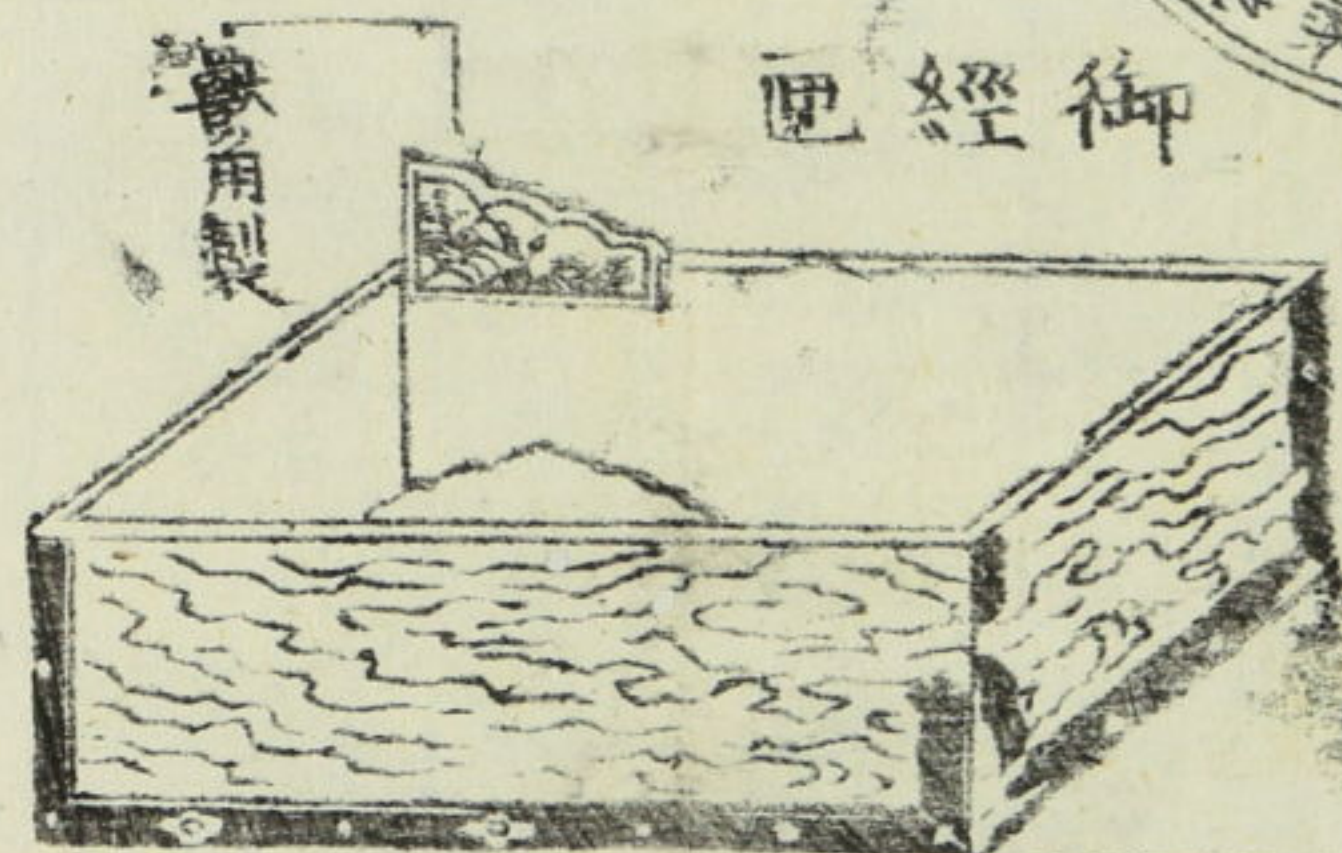
赤地錦



徑一尺
二寸五分



御經匣



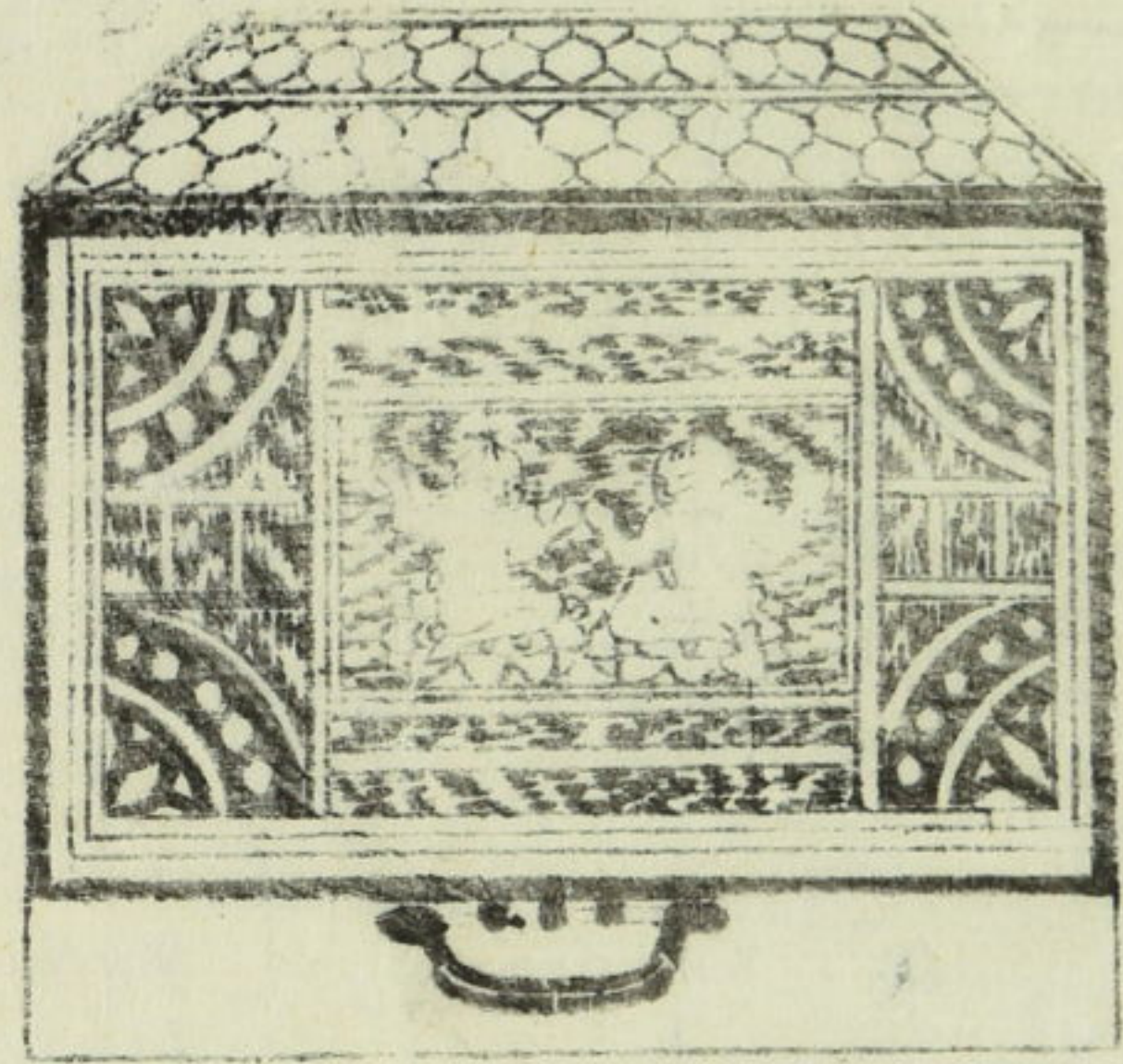
香木ヲ以
製ス表ハ
伽羅ノ皮
ニテ作ル



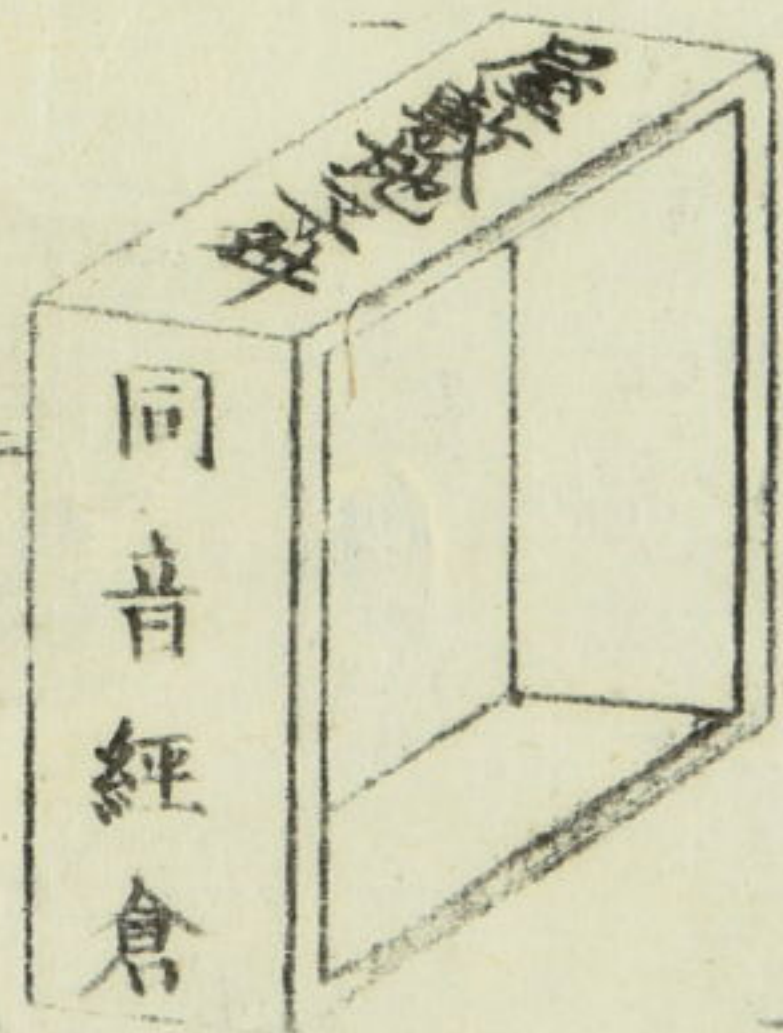
竹帙
建久年中頼朝卿
室永四年丁亥修

手箱太子

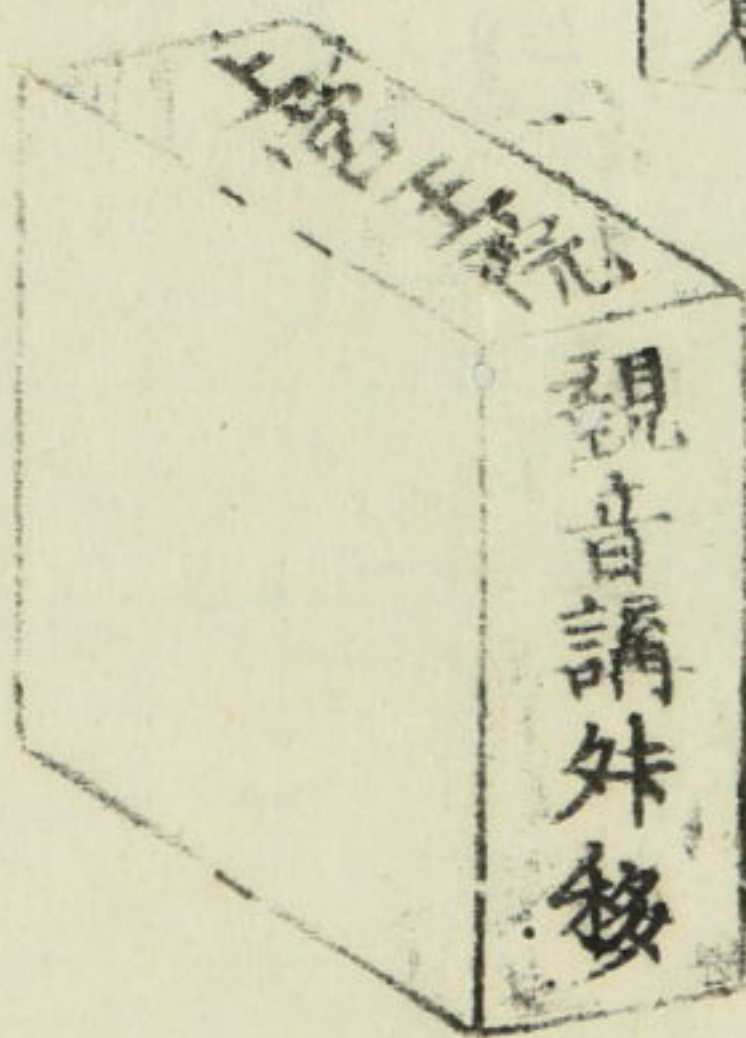
沉水香ヲ以佛像ヲ作リ給
残木ヲコノ箱ニ納置給フ



三 文明六年八月日
四 沙汰人 懐秀



古料ニ



三 康正二丙二月日
四 堂司 電秀

四方ニ右之文字彫付在
一 二 三 四 卜 順ニ見ルベシ

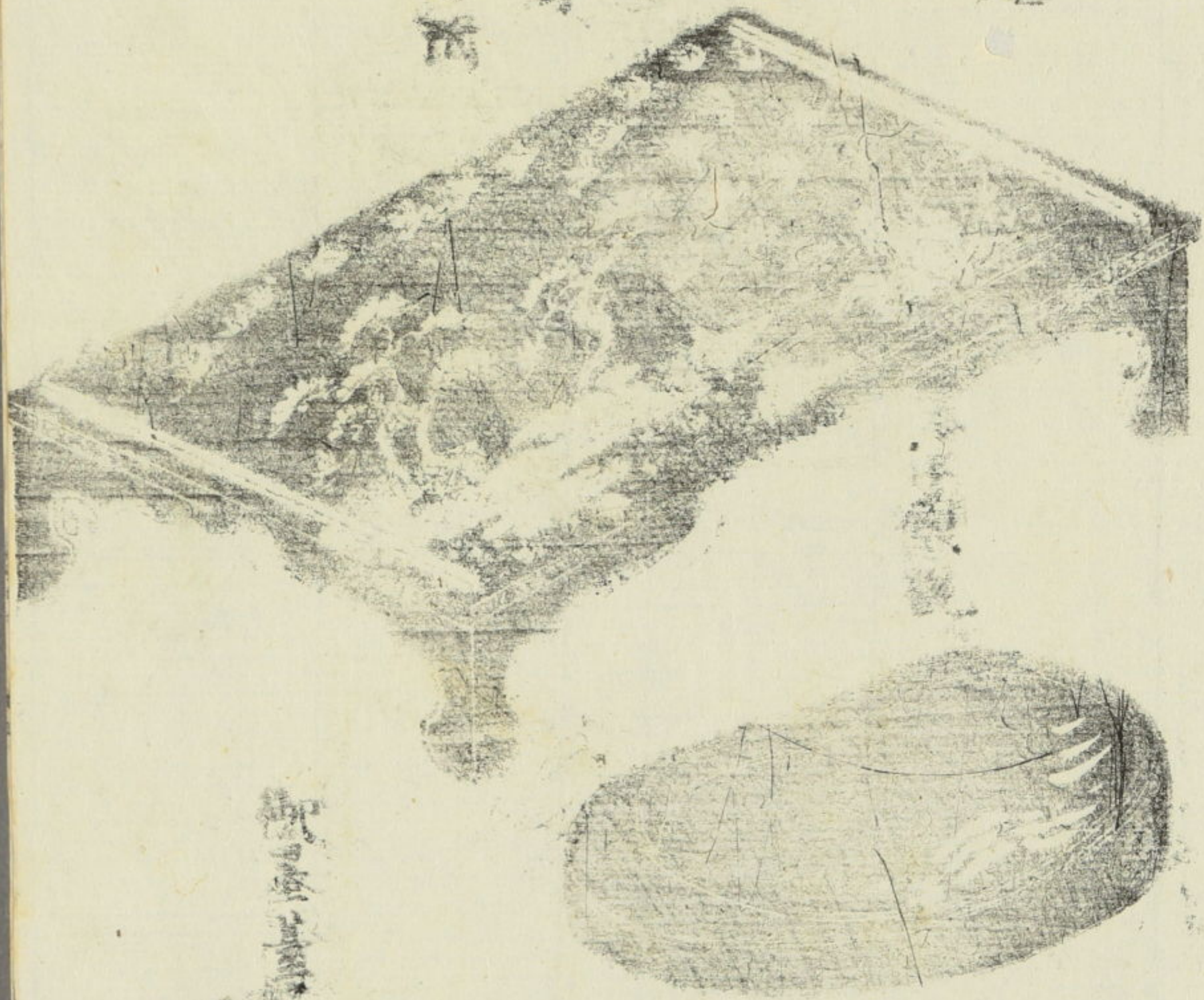
千鳥

文臺

東光

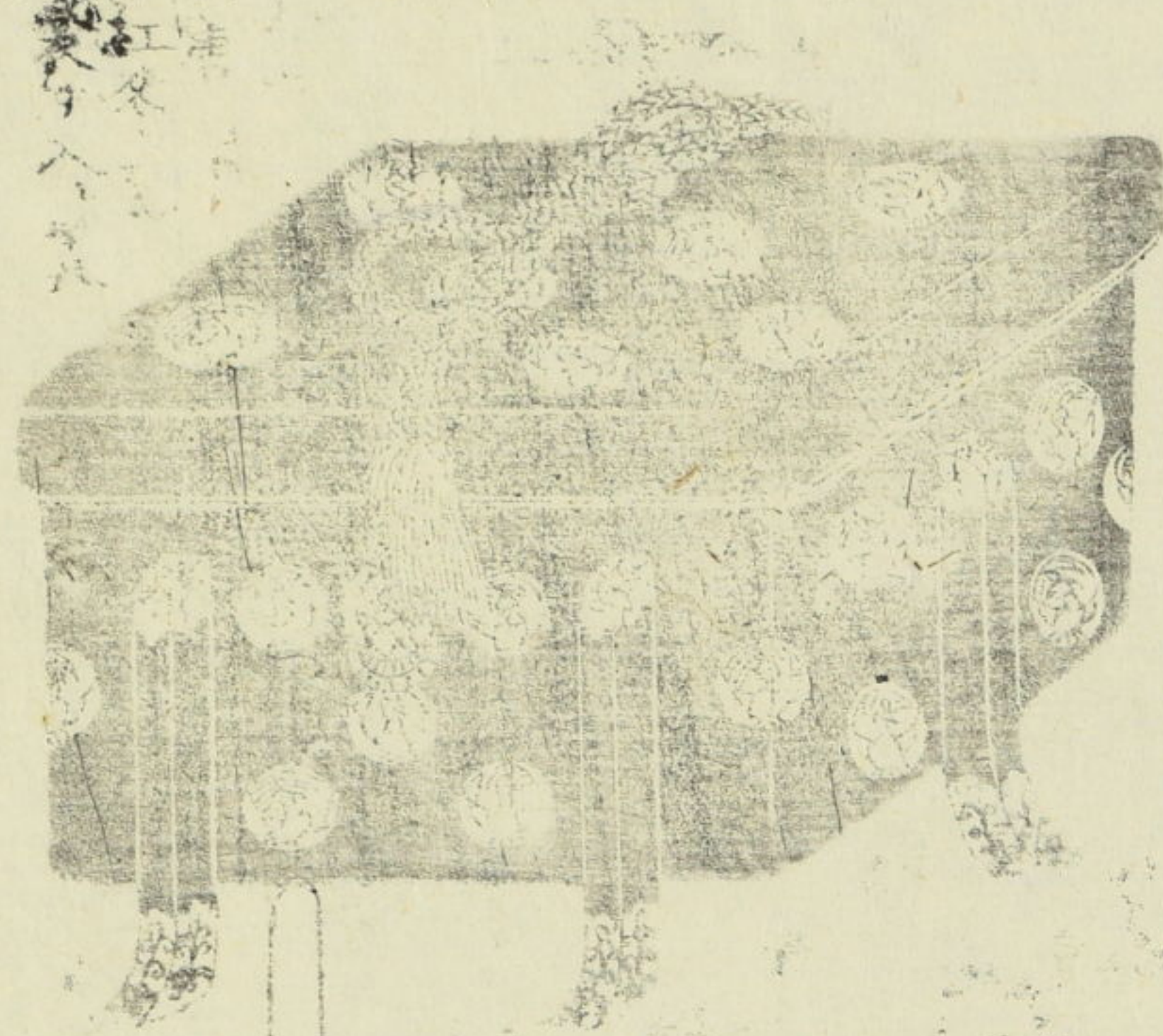
善政

東光



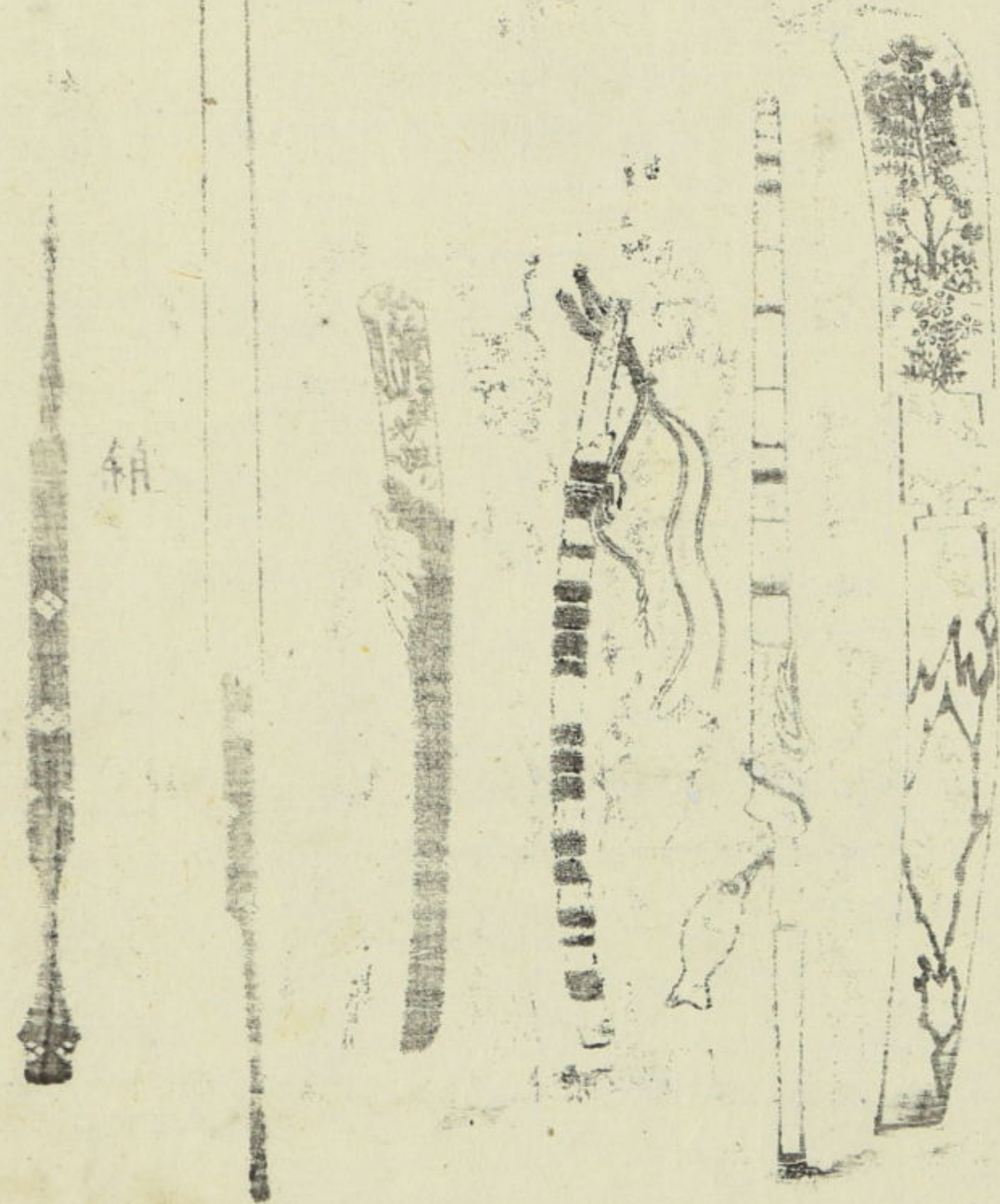
東光
善政
東光

御唐櫃



不減具

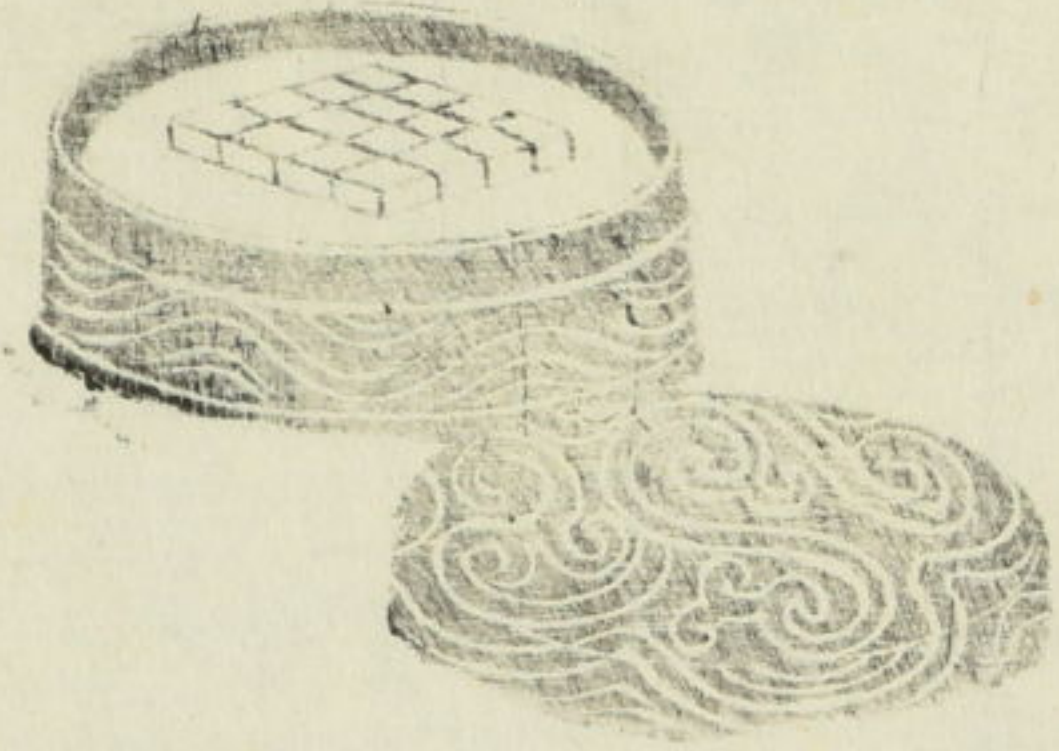
皇太子御所持御小刀數品



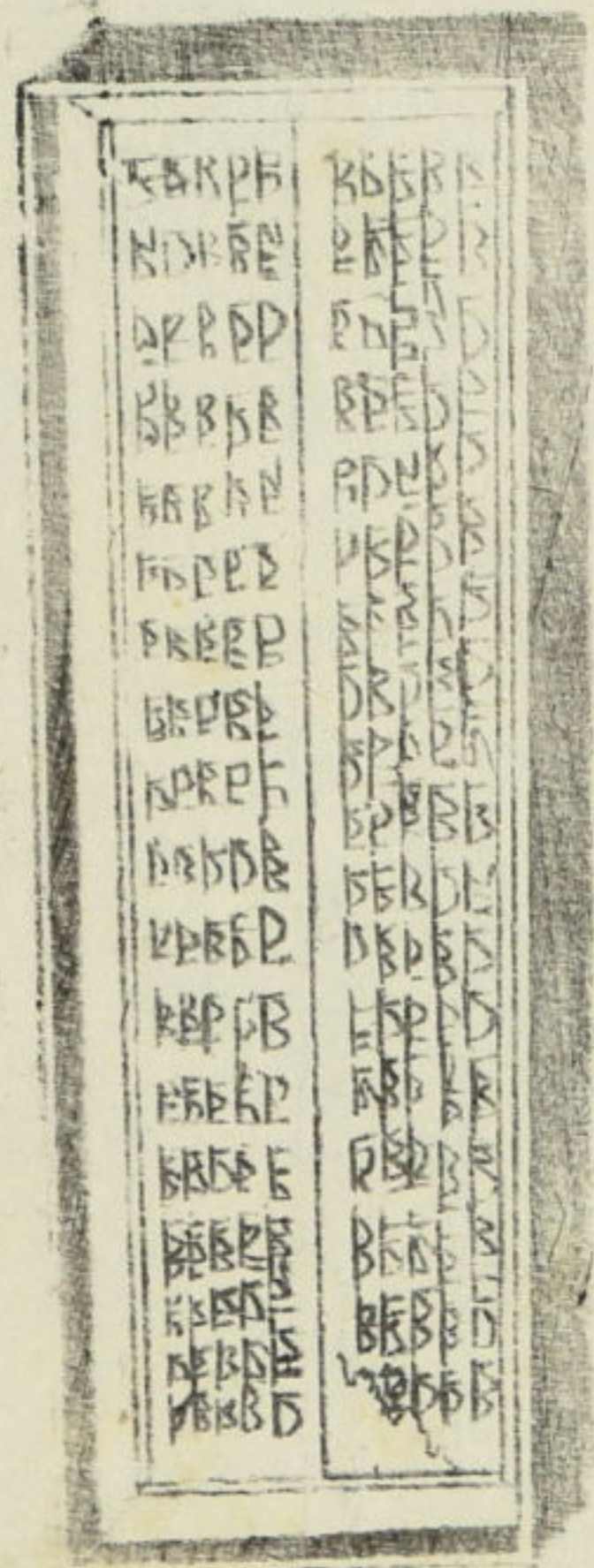
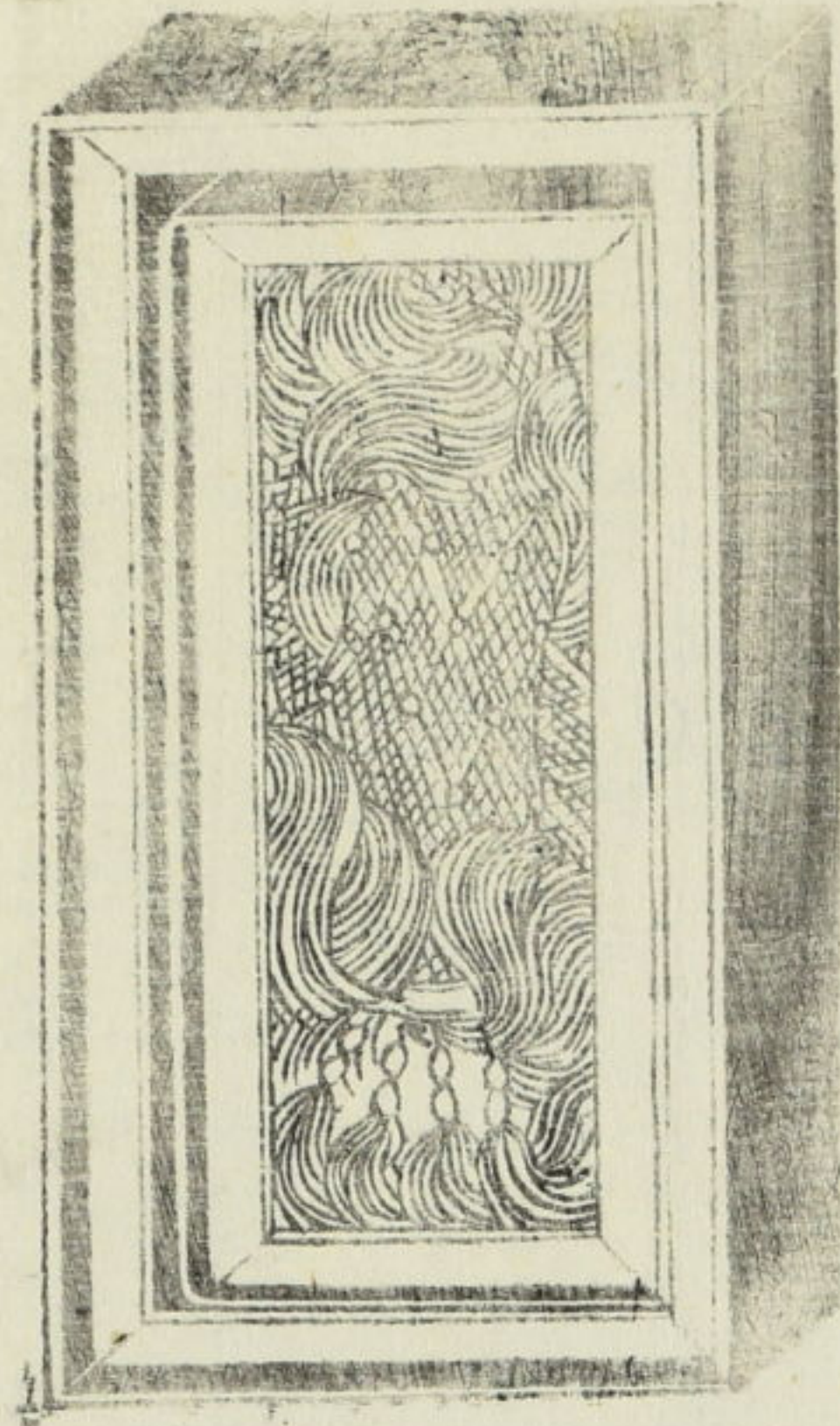
柄裝袋
御名之蓋
逢萊之履



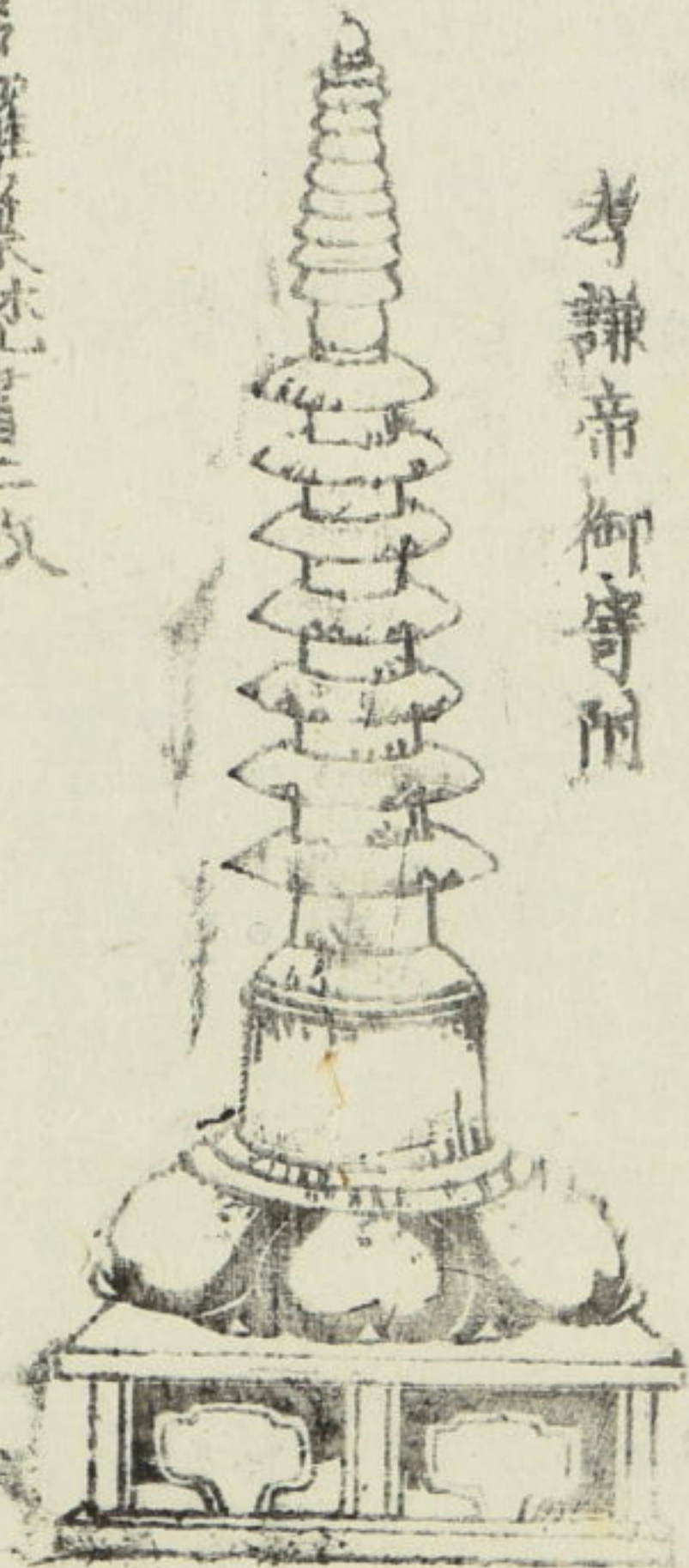
石名取ノ玉



聖武天皇御託弄御玉帶



多羅葉梵書二枚
尊勝陀羅尼心經等ノ書



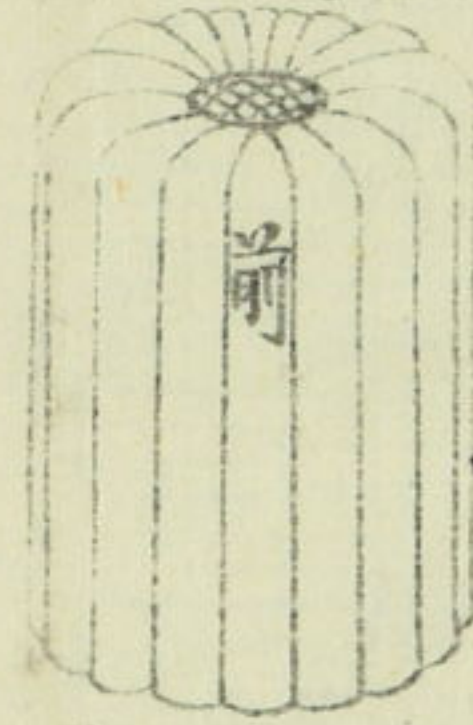
白萬塔之古制
孝謙帝御寄附

洞蕭

推坂ニテ
吹玉ノ時
山神舞
出多

御鏡

皇太子御幼推時
御手鏡



法華經八卷
用明帝御宸筆
外題皇太子御手
皮三張至
箱沉香寄也

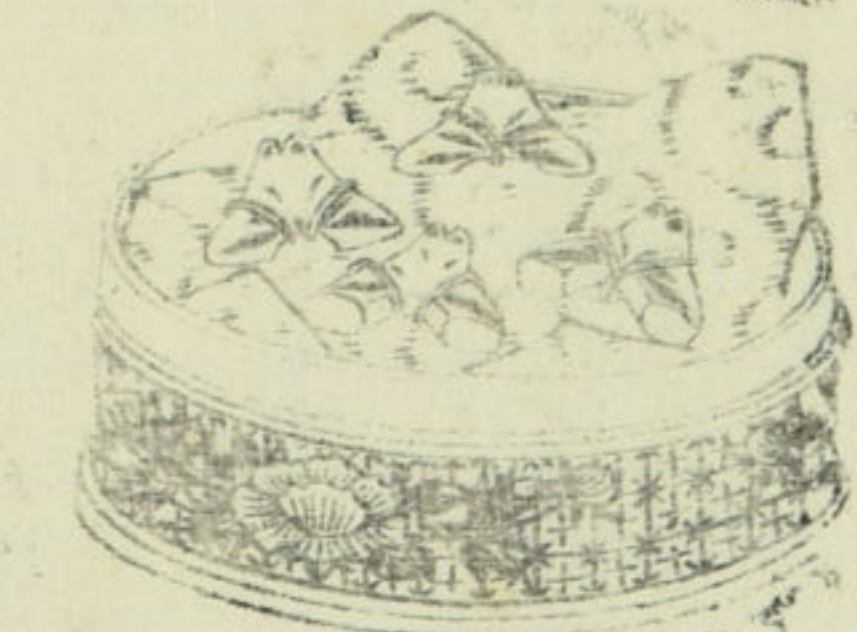
御手鏡

皇太子
御時代作也



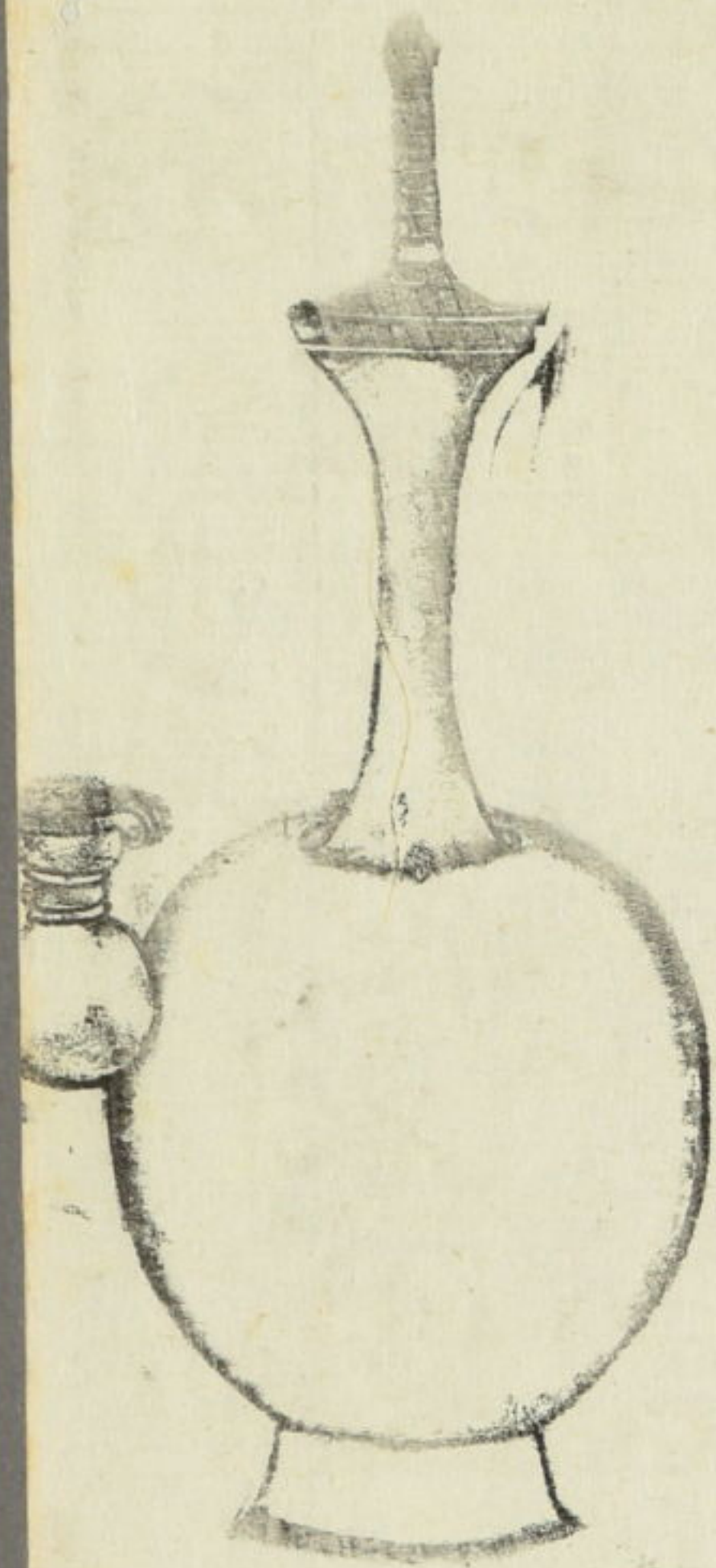
後樂

之面
三十
之内
一面餘



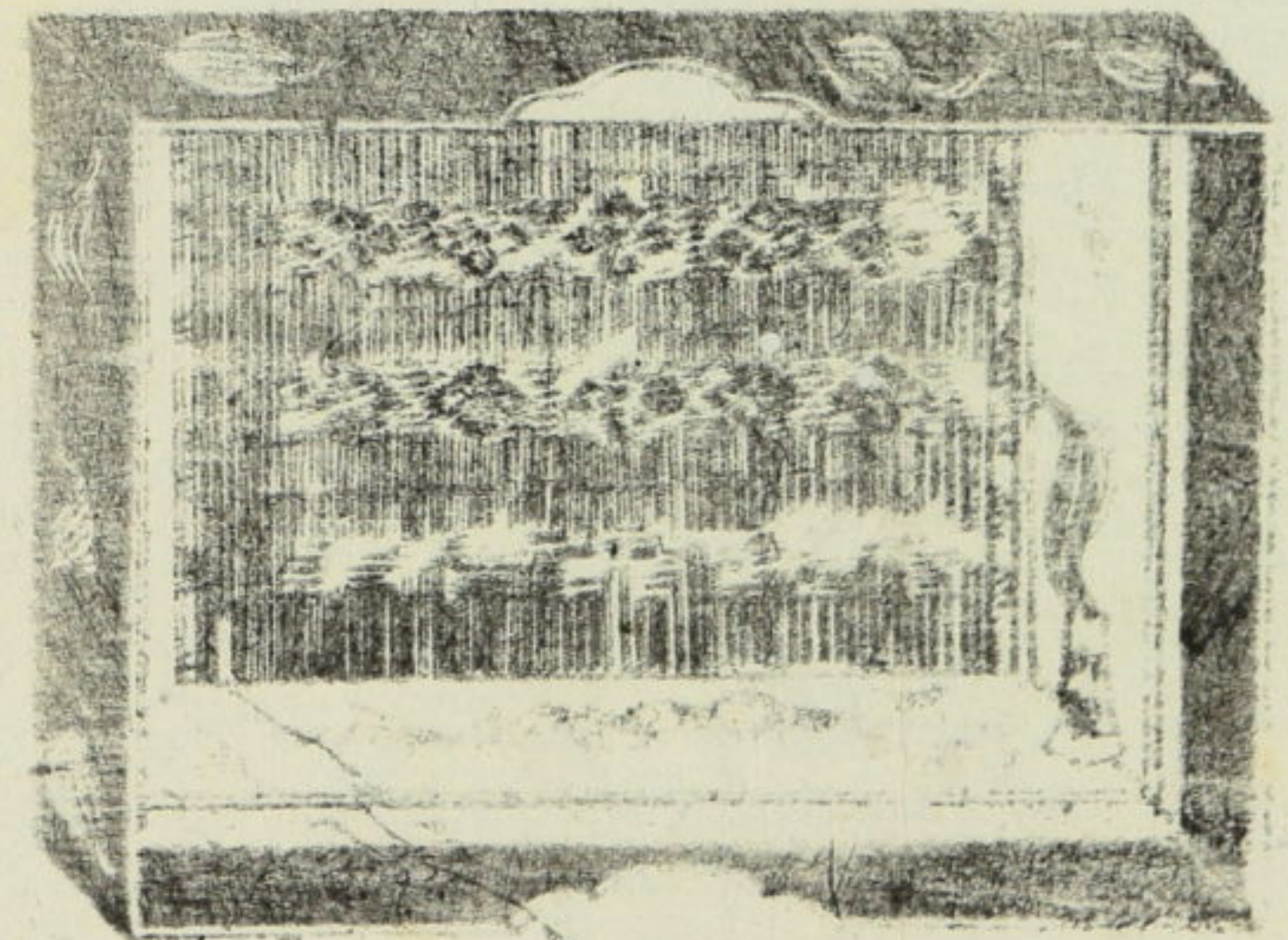
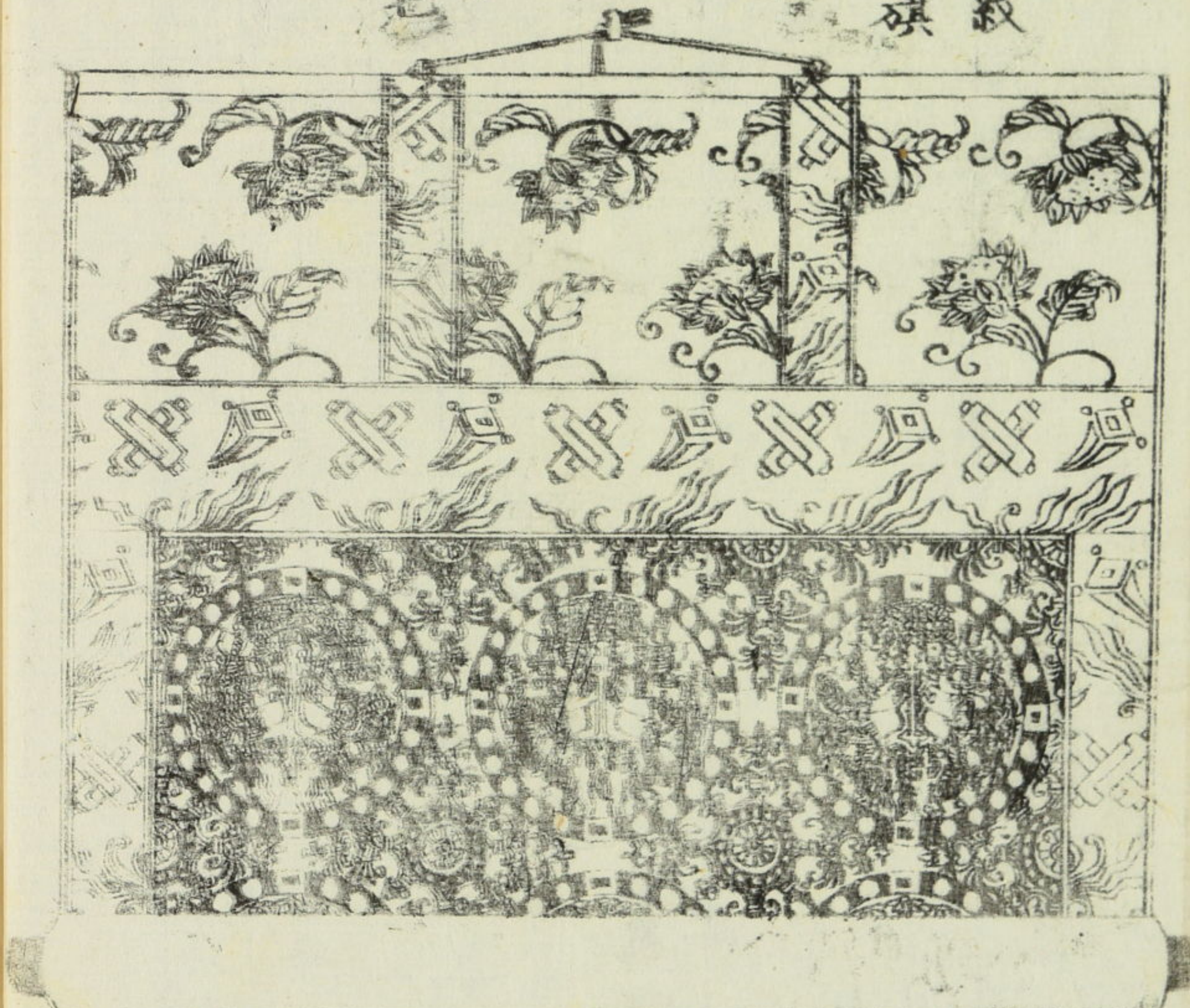
皇太子ノ御時
百濟國味
將來異國ノ
效樂ヲ
奏ニ奉ル
源信氏公惡魔降伏ノ多
此面ヲ作ラシメ



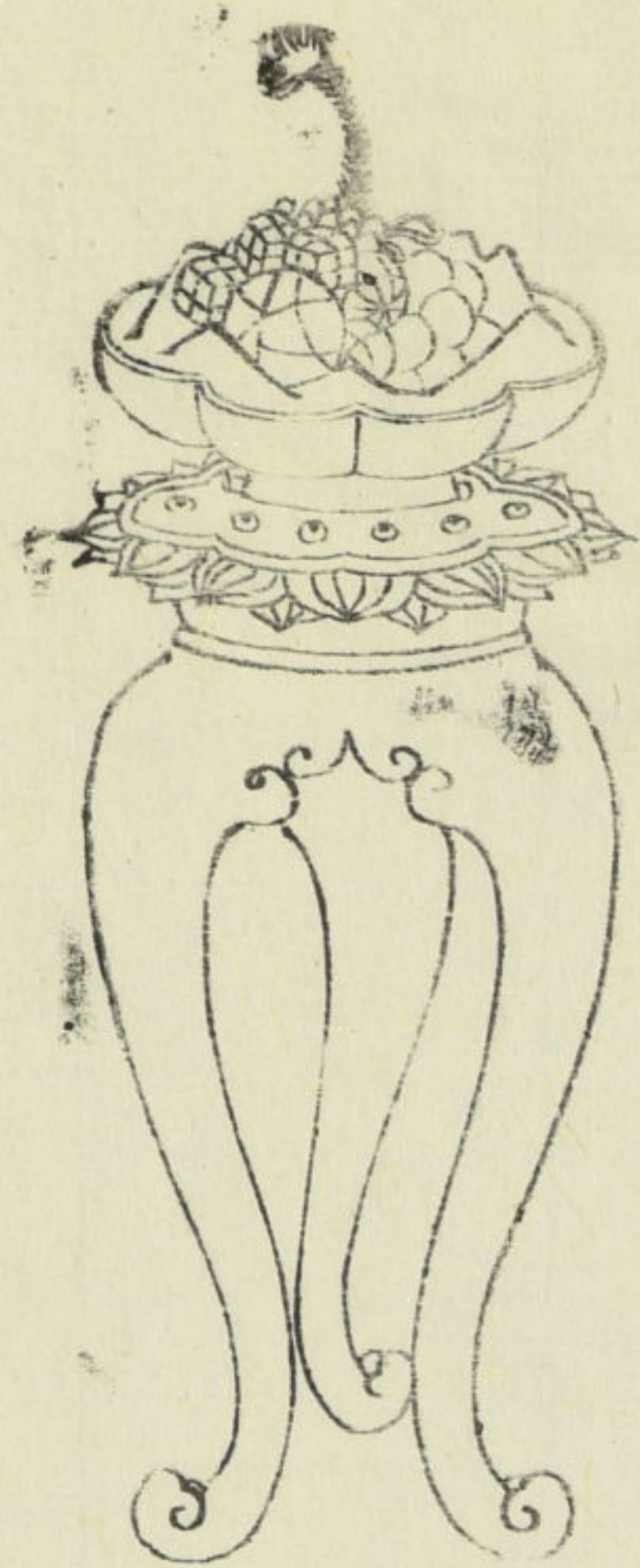


本外伊器數品之序
當御寺御供養之時用之

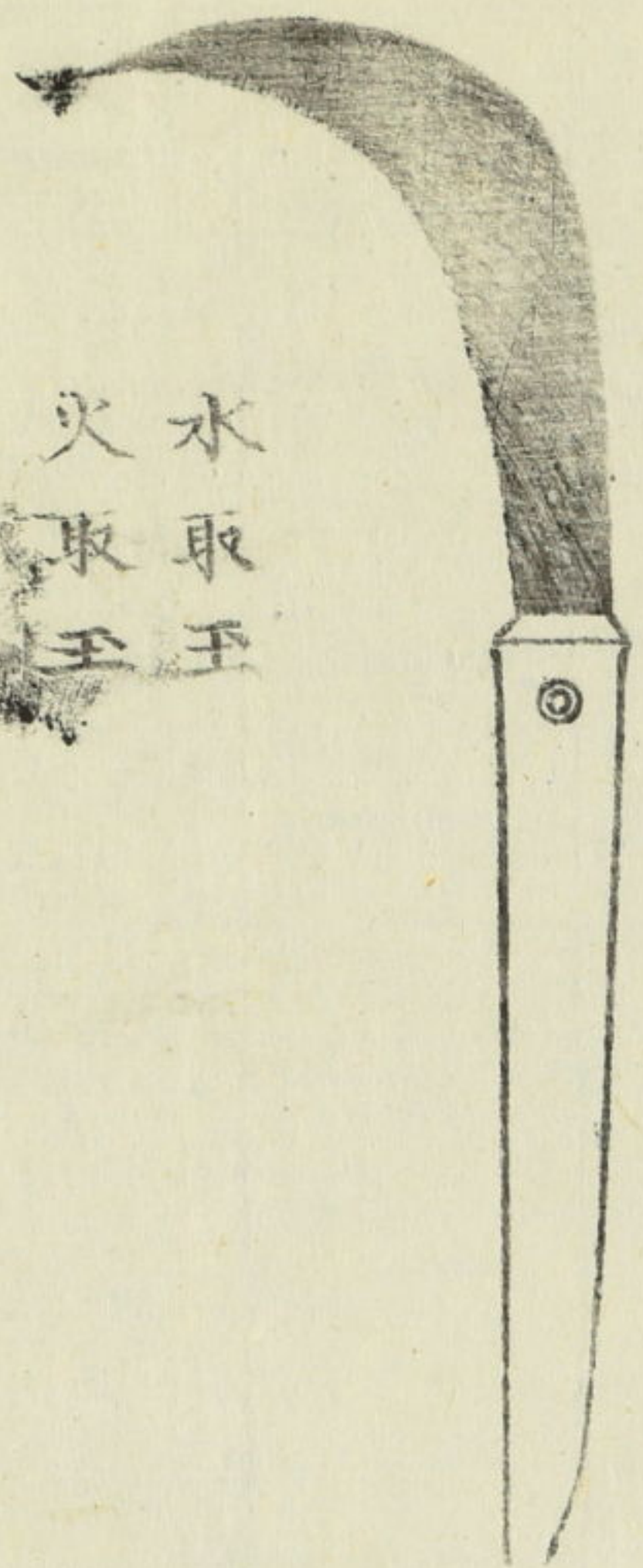
四天王紋
錦之旗
新羅國
庚狄
還治
之時
用之玉
御旗也



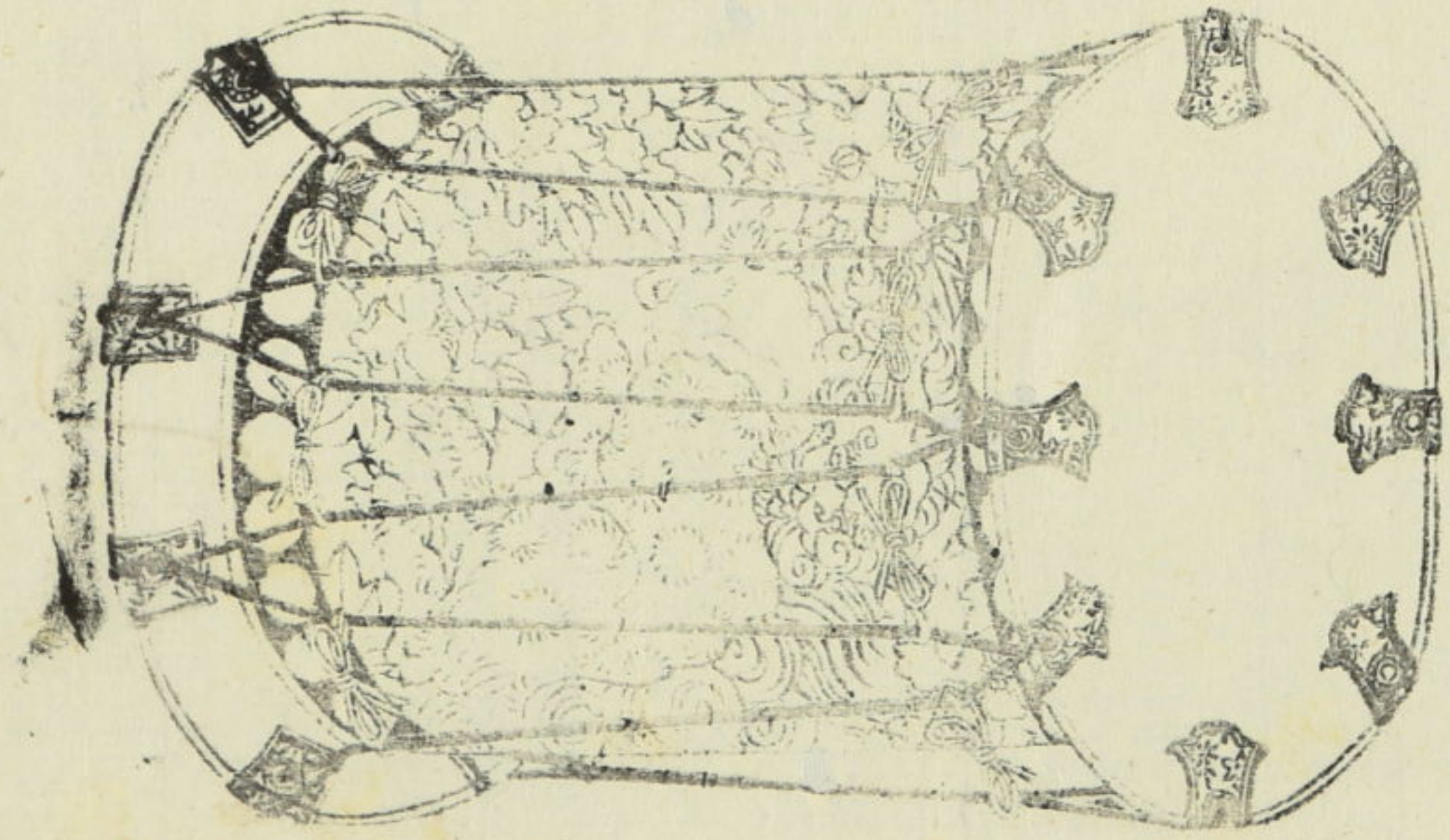
竹帳
皇太子御所
牙ノ鏡アリ
世ニ法隆寺形ノ



水取玉
火取玉



御當寺造立之砌
用ヒ玉ヲ御鎌也



石筒羯鞞
革ハ半鋸革正平

摩耶夫人

釋迦誕生之躰相
以黃金為躰相作之



三聖人

右大將

賴朝公

御寄附

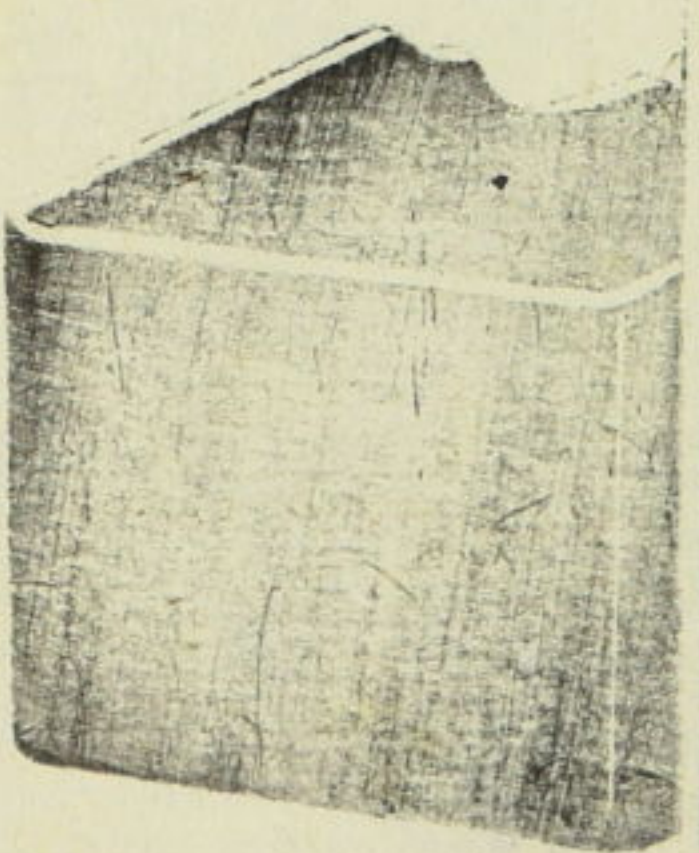
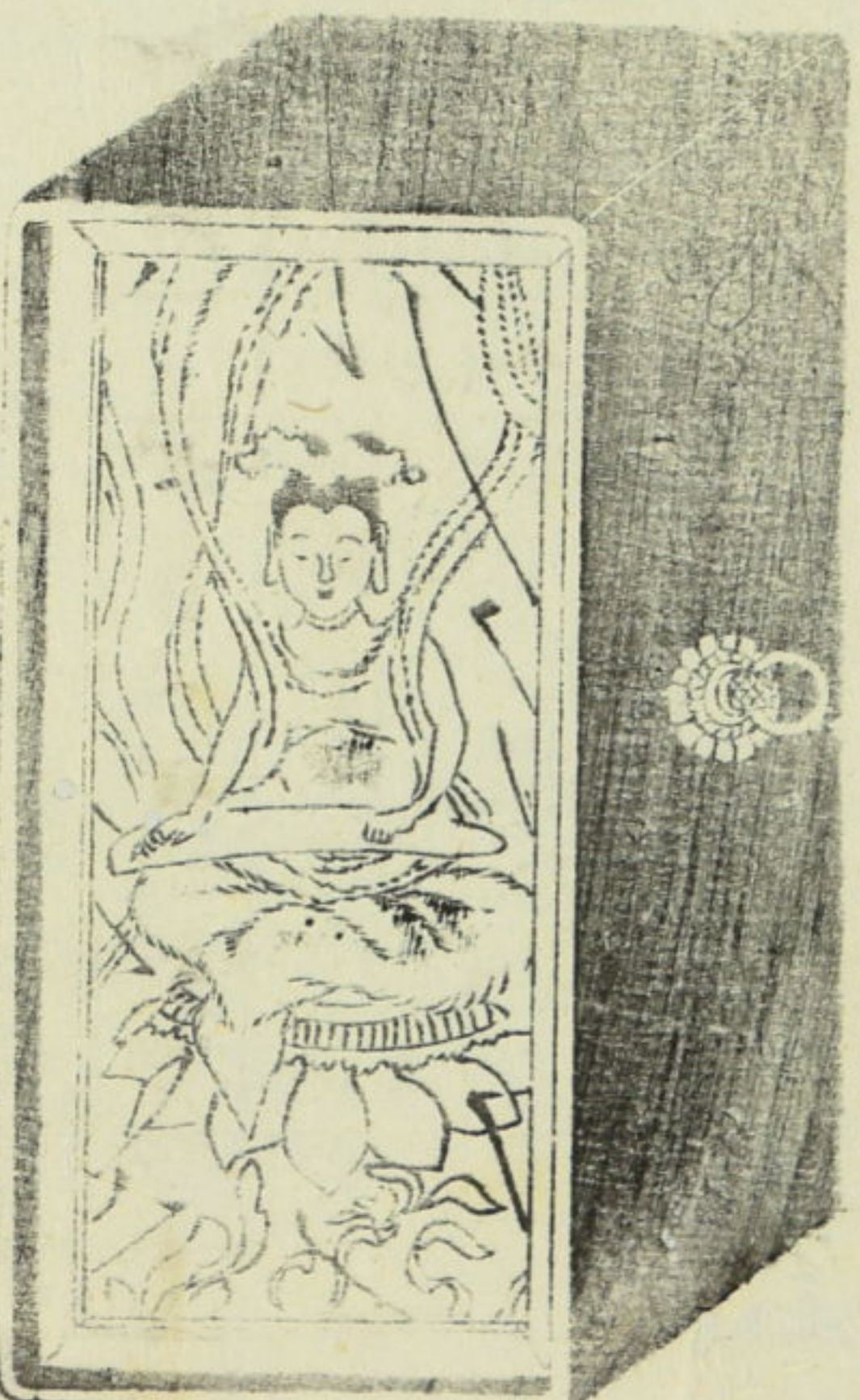


推古天皇御元帳



間人白王后並膳大娘

逢玉



定鹿物帳

獻去隆寺

御帶壹條

刀子壹口

御刀子壹口

青木會人拾部

石並盛漆革箱

錦淡綠腸續事袋

綠續裏肥數孔

於綠綾帶

奉今月分

先帝詔弄之珍

謹獻金光明等

佛前長為供養

宣助早遊十聖

花藏之宮

天平勝賢

後唐行納言

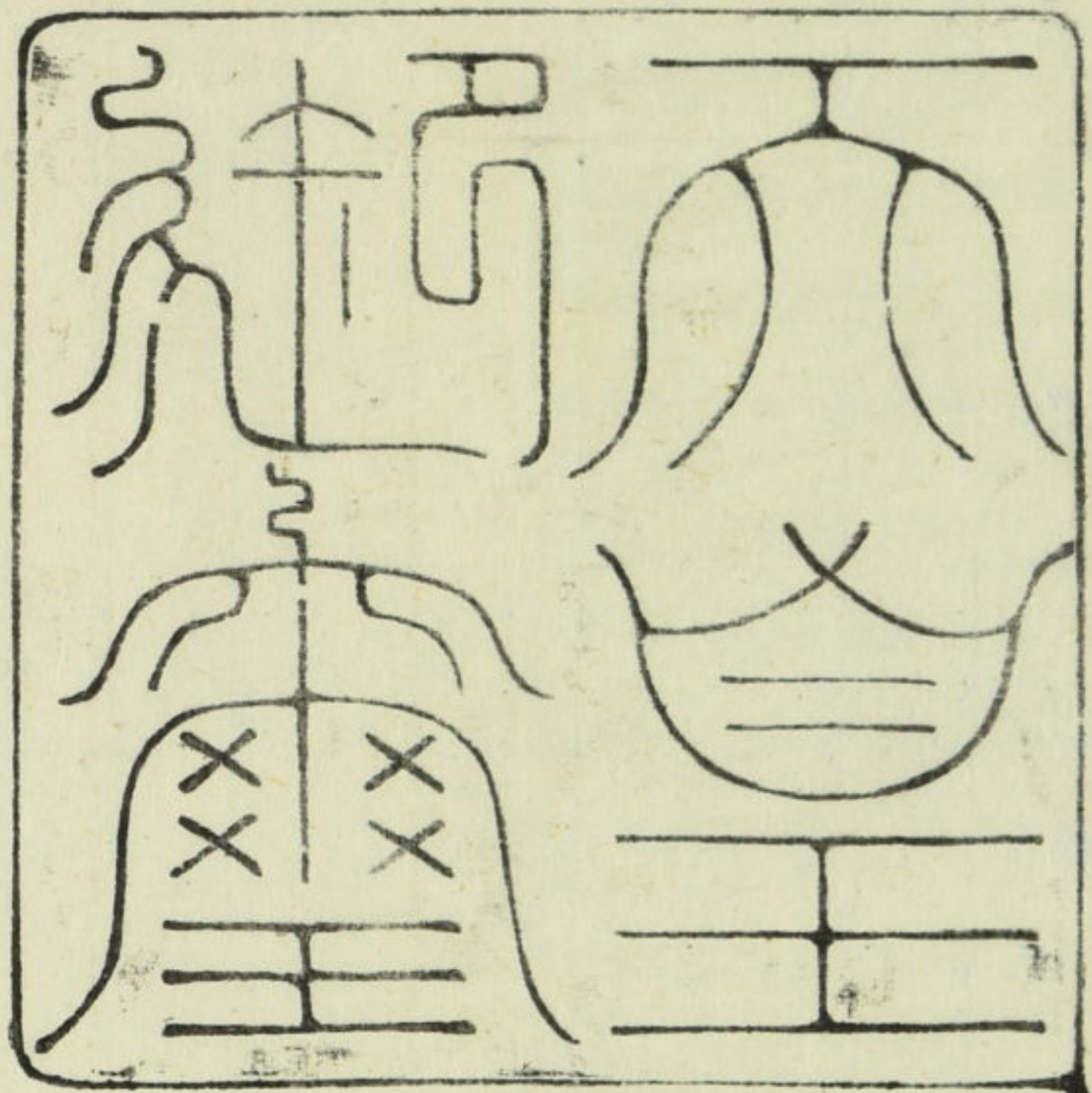
後唐守家卿

後唐任行紫微

後唐任山陰守

孝謙帝

皇

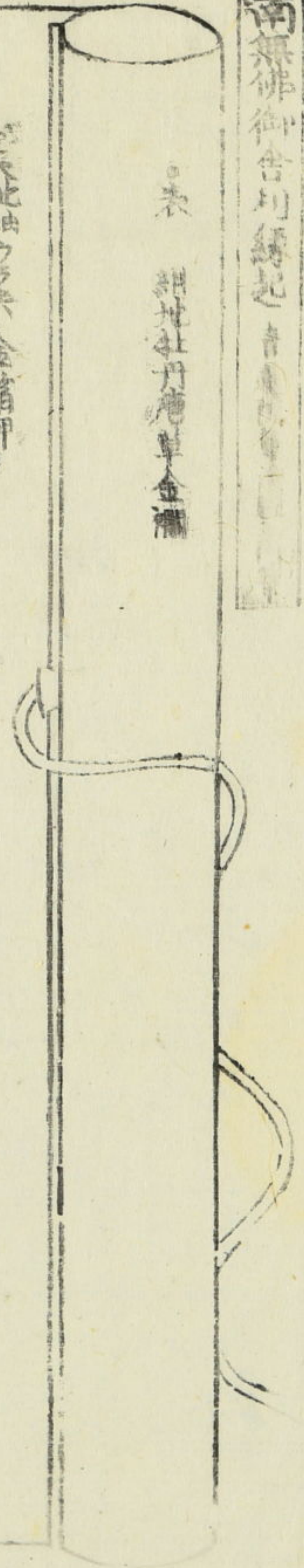


右御印ハ勅書之紙面一圓押之

南無佛御舎利鑄起

表 紺紙牡丹庵草金襴

天竺袖ウラ共金指押



紺紙金泥

文南無佛の舎利聖徳を弘く
 出づるに二歳の暮二月十五日自東京をむじひ
 南無佛一過て歩み弘く同き法ひの時出現し
 此處と稱すれば眼もや語の林のたつた法

一國傳本のやまに於て斑鳩や西に小川の流を
従ふの末に世までも人びとの道に於て入る事
は道の楚あはるるふ今の代までも我ら此のまら
ふは道に照るひも年にもり百年もが、一も
一日もふふ事なく、諸般供養の修法に
舍利講の儀式をふせうふじり、日ごとく今も
雙洞に七川の清のせまひ四方へ交えそふ

如珠のりや、珠の縁に七重の細をよも、珠の
うはりもむし、珠の中は、方徳満の香、空
に、空に、感涙の眼を、ぬくひは、く
と、澤見も、まは、目く、よ、意、意、に、増、減、か、く
お、不、拘、も、く、異、香、と、美、く、不、思、珠、の、香、瑞
貯、め、く、珠、勝、は、ま、い、り、ん、お、あ、え、か、う、く、
と、珠、の、い、の、を、う、つ、く、と、珠、の、い、の、を、う、つ、く、

人ハといふ事ヲ消テ忘ルハ大智ヲ識乃
名僧高僧もいふ舍利ニ徳遇の善縁を
テ一法ハ佛ノ徳ニ寄リをのこラ眼ノ遠カレ
舍利をわくる事ノ身ノ動カ佛の法名を
物を傳ルテ後の世に法の基ヲもちり成ル
むすひ事ハ何の世カ生カ流轉の
苦海張のこも傳ルンヤ此法舍利再

南無太子所寶物カモテ此法舍利ニ
一は聖の時代の文ニても書カレ
大和寺カモテ此法舍利ニ
持ハタカレ此法舍利ニ
此法舍利ニ
此法舍利ニ
此法舍利ニ
此法舍利ニ

遠く海を渡る舟の先
まはるゝ縁にまはるゝ
船ひはるゝのまはるゝ

舟の先を渡る舟の先

まはるゝ

大まはるゝを渡る舟の先
舟の先を渡る舟の先

舟の先を渡る舟の先

舟の先を渡る舟の先

舟の先を渡る舟の先

舟の先を渡る舟の先

舟の先を渡る舟の先

舟の先を渡る舟の先

